



Title	アラビア語主要方言の言語特徴
Author(s)	高階, 美行
Citation	アラブ・イスラム研究. 2014, 12, p. 23-76
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105956
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

アラビア語主要方言の言語特徴

高 階 美 行*

Main Arabic Dialects in the Framework of Arabic Dialectology

What follows is a contrastive table of linguistic traits of main Arabic dialects preceded by a brief introduction into Arabic dialect studies. Dialects covered are those of UAE (or Gulf), Iraq, Syria, Egypt, Sudan, South Sudan, Tunisia, Morocco and Malta, each of which is represented by its capital dialect. UAE dialect needs to be known more in the face of poor information resulting from the lack of accessible materials, while Juba Arabic (JA) for South Sudan, though not a dialect but a pidgin/creole as a lingua franca, is not to be overlooked because of the number of speakers and the vast area spoken therein. Striking is the speed of its growth and the Ki-Nubi languages seem to be overshadowed by the quantity of information available now for JA. The importance of JA is self-evident for dialectologists. As to other dialects, including Maltese, they constitute a basic framework of Arabic dialect studies. The selection of UAE dialect, a typical nomadic dialect, forced the space to sacrifice Saudi dialects, being also nomadic.

Items chosen for contrast come from personal interests and teaching aims, which speak of the original nature as materials for the class, and might not be well-balanced. The coverage, it is to be hoped, of the dialect varieties and certain items in a certain detail will come up with the shortcomings. Dialect data are all taken from the sources listed except for few which are supplied by my native friend (Egyptian), by S. Yoda (Tunisian and Palestinian) and by S. Nakao (JA and Sudanese). Original transcriptions, however, are changed where necessary for the sake of conformity and easier understanding, with one exception of Maltese for which its orthography is followed in due respect of its nature as a national language.

1. はじめに¹⁾

ここに掲載するアラビア語方言の対照表は、アラビア語の現代9方言を対象として、音韻関係7項目（項目番号1-7）、形態関係11項目（8-18）、統語関係2項目（19-20）、語彙関係2項目（21-22）、表現関係1項目（23）、その他1項目（24）についてデータを抽出することにより、アラビア語の話し言葉の多様性とアラビア語方言研究の基

* 大阪大学非常勤講師、大阪大学名誉教授

- 1) 本稿は大学の授業用に作成していた資料を元としている。はるか以前、池田 修先生とともに伴康哉先生と話していた際に、古い言葉ばかりに関心を示す私に対して「現代語もしっかりと」と言われたことを思い出し、伴先生の追悼号にあたり、恩師に積年の宿題を提出するつもりでまとめ直した。アラビア語方言学の基礎は教え続けてきたが、長年の怠慢に対してどうかお許しを希いたい。なお、資料のまとめ直しに際して、マグリブ方言とパレスチナ方言に関しては依田純和氏、ジュバ・アラビア語については仲尾周一郎氏から貴重な情報やコメントを得た。本誌掲載の技術的問題は、藤井章吾氏からの助言による。特に記し、3人に謝意を表する。

礎をまとめて提示することを目的としている。

単一の方言の情報量としては十分ではないが、隔絶した地域を除きアラビア語世界のほぼ連続した地域をカバーするので、アラビア語方言の全体像を俯瞰することができる。アラビア語の話し言葉の地理的範囲は広大で地域差も大きいので、全容を把握することは容易ではない。本稿がアラビア語の話し言葉の研究に関心を抱く若い世代の人たちの一助となることを、強く期待する。

なお、方言の選択については、主要な国や地域をカバーすることを第一義としたが、サウジアラビアの方言が欠けている。全域が遊牧民方言（後述）に属し、別の視点が必要であるためであるが、本稿では、最近とみに注目が集まるアラブ首長国連邦（UAE）の方言を扱っている。UAEは半島方言に属し遊牧民方言でもあるから、本稿で扱う方言の中でサウジアラビアの方言に一番近い。

2. アラビア語話し言葉（方言）の構成要素

アラビア語の現代話し言葉（方言）の全般的理解と、本稿で取り上げる比較対照項目の意味の説明のため、各方言話者の話し言葉を構成する主要要素についてアラビア語方言研究の枠組みから簡単に説明する²⁾。

I. セム語としての基本的特徴（概略）

- 1) 人称・性・数などの文法概念、2) 子音語根による語彙形成の原理、3) 軟口蓋化子音（強調音）の保持³⁾ないしその影響の残存、など。

II. アラビア語としての特徴（概略）

- 1) 語幹交替による複数形の形成（不規則複数 broken plural）、2) 動詞の活用原理

2) 19世紀以来のアラビア語方言研究は戦後まもなく C. Brockelmann (1954) [*Handbuch der Orientalistik*, III, 1954/1964, Leiden, E. J. Brill, 221-245], J. Cantineau (1955) [*Orbis*, IV, 149-169 = *Etudes de linguistique arabe*, 1960, Paris, Librairie C. Klincksieck, 257-278], Harvey Sobelman (1962) [*Arabic dialect studies*, Washington D. C., Center for Applied Linguistics] らにより概観がまとめられていたが、筆者がアラビア語を教え始めた頃に従来の蓄積の概要を手際よくまとめていたのは Mary Catherine Bateson (1967): *Arabic Language Handbook*. Washington, D. C., Center for Applied Linguistics (特に pp. 101-114) であり、この内容をアラビア語史研究の主要論文で補足しつつ教えていた。この頃には Peter F. Abboud (1970): “Spoken Arabic” [*Current Trends in Linguistics*. Vol. 6: *Linguistics in South West Asia and North Africa*, ed. by T. A. Sebeok, The Hague, Mouton, pp. 439-466] による研究概要のまとめもあったが、その後 Wolfdietrich Fischer und Otto Jastrow (1980): *Handbuch der Arabischen Dialekte*. [Porta Linguarum Orientalium, Neue Serie XVI, Wiesbaden, Otto Harrassowitz] の出版により方言研究は面目を一新し、Wolfdietrich Fischer (1982): *Grundriß der Arabischen Philologie. Band I: Sprachwissenschaft*. [Wiesbaden, Dr. Ludwig Reichert Verlag] (特に3. Das Neuarabische und seine Dialekte, 83-141) や Kees Versteegh (1997): *The Arabic Language*. [Edinburgh, Edinburgh U. P., paperback 2001] の功績により、方言研究はアラビア語研究の重要な分野として世界的な規模で展開されることとなった。その成果は Kees Versteegh (ed.) (1997-2009): *Encyclopedia of Arabic Language and Linguistics*. (EALL) [5 vols., Leiden, E. J. Brill] の中に遺憾なく反映されている。

3) 「保持」の中には、通時的な変化を経た形式を含む。

の保持（完了形、未完了形、命令形）、3) 名詞を修飾する形容詞の後置、4) 各種の形態素の保持（名詞の規則複数語尾など）、5) 各種の文法語彙（代名詞、接続詞、副詞など）、6) 動詞語幹拡張形式（派生型）の名残を保持、など。

III. 「新アラビア語」 Neo-Arabic Type⁴⁾の特徴

1) 屈折語尾 الإعرابの消失

屈折語尾の消失により、統語的機能を担い文の意味を決めるための代替手段が生まれるとともに、語形成が簡素化し全体として習得が容易となった。

(a) 格変化の消失：格変化のお陰で「古アラビア語」の語順は比較的自由であったがその消失により、(1) S-V-O の語順に固定化し、(2) 語彙の意味関係を示す新しい前置詞が登場して多用され、(3) 名詞の属格構造 الإضافة の代替が必要となり、文法語彙による迂回表現が発達する：Egp. bitā‘ ほか。

(b) 動詞の法の消失：代替として副詞的な時相表示詞が発達する。

Egp. b-tiktib 君は(今)書いている； Syr. kānu ‘am/‘amma y-sa‘dū-ø b-il-maḥall 彼らは店で彼を手伝っていた； Mor. ka-y-akl-u 彼らはいつも食べている [いずれも継続相]⁵⁾

(c) 文法数としての双数の消失：双数語尾 *-ēn は名詞語尾として残るが統語的には機能せず、代名詞・形容詞・動詞は複数で対応する（疑似双数）。また方言により、形態的には双数語尾に遡る -ēn/-īn が複数形として機能する。

2) 語根体系の劣化

(a) 動詞派生型：方言により程度は異なるが、種類が減少し新規語彙の生産力が失われる。

(b) 受身表現形式：語根間の母音の組合せによる表現から、方言ごとに迂回的表現や新表現形式に移行する。

(c) 名詞形態素の減少：方言により異なるが、新規語彙の形成が恣意的となる。

3) 音素体系の独自変化

下層言語 substratum や隣接言語の影響により、方言ごとに音素体系が異なる。

4) Fischer - Jastrow (1980), pp. 15-19等を参照。格変化や動詞の法の屈折を保持する「古アラビア語」 Old Arabic Type（典型的には各時代の書き言葉）に対立する概念のこと。定住民方言（後述）に共通するこれらの特徴から、Ferguson (1959): “The Arabic koine” [Language, 25, pp. 616-30] は方言形成の説明として14特徴を列挙した（コイナー説）が、その後 Versteegh (1984)は34特徴まで数え(pp. 20-21)、さらに追加する研究者もある。Ferguson による14特徴の多くは遊牧民方言（後述）にも観察されることを Joshua Blau (1965): *The Emergence and Linguistic Background of Judaeo-Arabic. A Study of the Origins of Middle Arabic* [Oxford, OUP; 2nd ed., 1981, Jerusalem, Ben-Zvi Institute] は指摘し(p. 17 note 2)、各方言が大まかな特徴を共有するに至る要因は、(かなり均質的であったイスラーム前の) アラビア語古方言の存在、general ‘drift’ (一般的定向変化)、方言間の接触などであると主張した（定向変化説）。しかし、本書の功績は、むしろ「中間アラビア語」（新アラビア語に強く影響された書き言葉）の概念を明瞭にした点にある。その後 Simon Hopkins (1984): *Studies in the Grammar of Early Arabic. Based upon papyri datable to before A.H.300/A.D.912* [London Oriental Series, Vol. 37, London, OUP] は、中間アラビア語と共通する現象のヒジュラ歴1世紀からの存在を示し、早期の新アラビア語生成と発展を論証した。

5) Egp. = Egyptian, Syr. = Syrian, Mor. = Moroccan, Irq. = Iraqi.

- (a) 新規子音の採用。
 - (b) 軟口蓋化子音（強調音）：種類が減少、ないし変化。
 - (c) 二重母音の変化：長母音化（íay > ē, *aw > ō）を起点として、複雑に変化。
- 4) 話し言葉に共通する語彙
- (a) رَأَى ra'a 見る：活用が複雑なため、大半の方言で šaf/yi-šūf に交替。
 - (b) جاء bi- 持って来る：使用頻度が高く新規語彙 ġāb/yi-ġīb に成長。
 - (c) مَا mā 何：書き言葉 mā は機能が多く習得も困難で達意でなく、迂回的表現に交替（*'ayy-u šay'-in > 'eš, aš, š-）。

IV. 定住民方言 Sedentary Dialects か遊牧民方言 Nomadic Dialects かの特徴

遊牧民方言は、遠征や移住に参加せずアラビア半島やシリア砂漠に留まった遊牧民が使用する話し言葉であり、西アフリカに進出したのはずっと遅く11世紀以降である（後述）。イスラームの社会と文化の建設に参加せず、定住域は略奪の対象となることもあった。定住民方言は、遠征に参加して新規建設都市 **مصر** miṣr（軍営都市、前線都市）やその後発達した村落に居住する定住民が用いる話し言葉である。イスラーム化した下層言語話者と移住したアラブ人が混在する新社会の中で形成され、イスラームの社会や文化の担い手である一般市民の日常語となった⁶⁾。両者間の違いの主な現象を単純化して示すと、次のとおりである。

1) ق [q]

定住民方言：無声音 [ʔ], [q], [k]（破裂音）

遊牧民方言：有声音 [g], [dʒ], [ɣ]（破裂音、破擦音、摩擦音）

2) 歯間摩擦音

	ث t[θ]	ذ d[ð]	ظ z[z]	ض d[ð]
定住民方言（破裂音）	t	d	d[ð]	
遊牧民方言（摩擦音）	t[θ]	d[ð]	ḍ(軟口蓋化した[ð])	

3) 女性複数（代名詞・動詞）

定住民方言では双数の消失と相まって女性複数が消失するので、人称体系が簡素化し動詞活用の習得が容易となる。遊牧民方言は女性複数を保持する。

4) 未完了語尾 í-īna/-ūna の -n

定住民方言では í-na を脱落させる（-ī/-ū）が、遊牧民方言は -n として保持する（-īn/-ūn）。

V. 東部方言 Eastern Dialects か西部方言 Western Dialects かの特徴

北はエジプトとリビア国境、南はチャド湖を結ぶ線を概略的な地理的境界線として、次のような大きな方言特徴の分断が見られる。

1) 未完了活用の再編（1人称の新形式）

6) アラビア語の定住民方言の形成に関するコイナー説などの諸説については、高階(1988):「アラビア語のピジン・クレオール」(『言語学大事典』第1巻、三省堂、pp.483b-487b)を参照。

定住民方言では双数と女性複数が消失したが、西部方言ではそれに加えて1人称で未完了接頭辞の再編 *n-* と複数接尾辞 *-u* の一般化が起こり、さらに単純化した⁷⁾ : *Mor. n-sedd* 私は閉める *n-sedd-u* 我々は閉める。

		東部方言		西部方言	
人称	性	単 数	複 数	単 数	複 数
3	<i>m.</i>	y-X-ø	y-X-u	y-X-ø	y-X-u
	<i>f.</i>	t-X-ø		t-X-ø	
2	<i>m.</i>	t-X-ø	t-X-u	t-X-ø	t-X-u
	<i>f.</i>	t-X-i		t-X-i	
1	<i>m./f.</i>	'-X-ø	n-X-ø	n-X-ø	n-X-u

(X = 未完了語幹)

2) 強勢のない開音節短母音の処理

東部方言/よく保存	西部方言/脱落
<i>Egp. qadīm, ḥisāb, katab</i> 但し *kātīb-a/-īn > katb-a/-īn	<i>Mor. qdim, ḥsab, kteb</i> *kātīb > kātāb > kat(ə)b, katb-a/-in

この現象は、マグリブ全域が遊牧民方言の強い影響を受ける前にアラビア語化した(pre-Hilālī 後述) マルタ方言⁸⁾でも共有される : *kitāb > ktieb 本, biered 寒い, *biered-a (*bie-re-da) > bierda (*f.*), *biered-in (*bie-re-din) > berdin (*pl.*).

3) 語末重子音-CC の処理

東部方言		西部方言
-CC	a) <i>Egp. šubḥ</i> 朝; <i>mašr</i> エジプト	*šahr > šahər > šcher > šher ‘month’
-CC >	b) <i>Irq. *šubḥ</i> > *šubəḥ > šubuh; mašir ~ mišir	↑
-CaC >		*qabr > *qabər > *qabar > qbar 墓
-CVC		↑
説明	a)は-CCを許容する。b)では補助母音から短母音が生じ元の母音が開音節となるが2)の規則で保持される。	CVCC > CCVC (上例は <i>Mor.</i>) 補助母音から短母音が生じ、開音節となる元の母音(↑)は2)により脱落する。

7) この特徴は、上に述べた概略の境界線よりエジプト側に食い込んでいる。海岸沿いにアレキサンドリアを含んでロゼッタ近くまで延び、砂漠側をナイル川西支流に沿ってカイロに迫り、上エジプトではソハーグからルクソールにも観察される。その境界近くでは *a-ktib-ø/ni-ktib-u* という中間形式の地域がある。Peter Behnstedt u. Manfred Woidich (1985): *Die ägyptisch-arabischen Dialekte. Band 2 (Dialektatlas von Ägypten)*, [Wiesbaden, Dr. Ludwig Reichert Verlag], Karte 210-213 による。

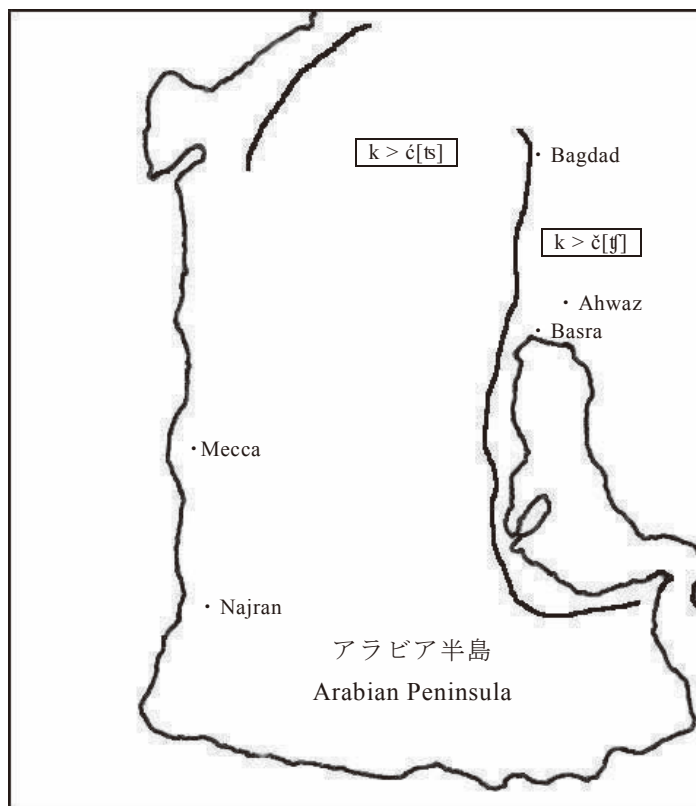
8) チュニスのアグラブ朝により征服(870年)されたマルタ島は、アラブ人が追放される(1224年)まで約350年間にわたりアラビア語が最上位の言語であった。カトリックの土地であったが、小島であるためか、イスラーム化努力への関心は弱くイスラームへの改宗は進まなかった。しかし、以前の言語は同じセム語の新ボエニ語 Neo-Punic (フェニキア語の後裔)であったと推定されており、同一の文法カテゴリーや同系の語彙であったため、住民のアラビア語化は徹底した。その後シチリア語などから多くの語彙を借用しラテン文字を使用するが、アラビア語としての性格に揺るぎはなく、アラビア語研究の観点からは「マルタ方言」である。詳細は、高階(1992):「マルタ語」(『言語学大事典』第4巻、三省堂、pp.179a-187b)を参照。

4) 軟口蓋化子音（強調音）の影響範囲

軟口蓋化子音は、舌の付け根が強く緊張するため口腔内が狭まり、母音に暗い音色を与える。東部方言では、短母音はよく保持されるため、影響範囲はその子音を含む音節（＝直後の母音）にとどまる。これに対して西部方言では、西に進むにつれ上の2) のルールにより語彙内で母音が減少する⁹⁾ため、軟口蓋化子音は語彙全体の音色を決定する。モロッコ方言ではこの現象がさらに進み、全ての語彙は「明るい音色」plain か「暗い音色」flat かを持ち、その違いで意味が弁別される。これは強勢や声調と同じく、語彙全体の発音を決めるかぶせ音素の機能である。語源的に軟口蓋化子音を持たずとも、意味の弁別のため「暗い音色」と定まる語彙は、流音(l, r) や両唇音(b, m) も軟口蓋化する。したがって、各語彙固有の音色は、その語彙内における軟口蓋化子音の有無により表示される。モロッコ方言の流音 r で例示する。

plain: riḥ 風, risala 手紙; flat: ɾažel 男, ɾas 頭

VI. 特定の地理的範囲に共通する特徴



9) 言い換えると、残存する母音の多くは元の長母音かīaw/*ayに由来する。短母音の脱落以外でも西部方言では、母音の種類が減少（口の開きが狭まり*ay > *ē > ī, *aw > *ō > ū）するとか、短母音減少の結果として母音の長さの区別が曖昧化する（長く発音する必要がない）などの現象があり、東部方言とは様相が異なる。

国家単位でみればメディアによる首都方言の強い影響があり、同一国や大地域の内部でも小地域単位（上エジプトと下エジプト、シリアとパレスチナなど）に観察すれば、歴史的経緯に由来する地域独自の特徴がある。前掲の略図は、広範囲に観察されるこうした現象の中から良く知られる $\text{ʔ} k$ の破擦音化 ($> \text{ʕ} [\text{g}]$) に関する分布の概略¹⁰⁾であり、この範囲を知ることは重要なのでここに掲げる。当然ながらこれ以外でも、地方都市や村落単位に固有の特徴が存在するので、結果として、谷1つ越えれば言葉が違う日本と同じである。

VII. 書き言葉と会話場面の影響（話者レベルの制約）

アラビア語が公用語である地域や国¹¹⁾では、アラビア語話者は公的場面で書き言葉（フスハー）、私的場面で話し言葉（アーンミーヤ）を用いるとの意識を広く共有している¹²⁾。しかし、特定の話者に限定すれば、それがどのように実際の発話で実現されるかは、話者がどの程度書き言葉を駆使できるか（教育レベル）と会話の環境に大きく影響される。話されるのが「書き言葉」であっても教育により習得する「標準語」は教科書や文法書の中にのみ存在し、話し言葉のはずの「〇〇方言」は主として外国人研究者が執筆した「アラビア語〇〇方言入門書」の中にのみ存在する。これについて Muhammad Badawi (1973)¹³⁾は、エジプトにおける言語変種のスキームを、*fuṣṣḥā al-turāt*（イスラームの書き言葉）と *fuṣṣḥā al-‘aṣr*（現代の書き言葉）を別として、次のように説明する。

‘*āmmīya al-muṭaqqafīn* 「教養人の話し言葉」

‘*āmmīya al-mutanawwirīn* 「教育を受けた人の話し言葉」

‘*āmmīya al-‘ummīyīn* 「文字が読めない人の話し言葉」

-
- 10) T. M. Johnstone (1967): *Eastern Arabian Dialect Studies*. [London Oriental Series Vol. 17, London, OUP] p. 5, Map 2 を元に作成。地中海側でも、シリア南部からパレスチナなど境界線に沿うように広がる。また Theodore Prochazka Jr. (1988) [*Saudi Arabian Dialects*. Library of Arabic Linguistics, Monograph No. 8, London, KPI Limited] によれば、半島の南西部 Najran の北西に位置する4部族にもこの現象がある (pp. 16-17)。遊牧民の移動や過去における接触の結果と推測されるが、詳細は分かっていない。Wolf Dietrich Fischer und Otto Jastrow (1980) はアルジェリアの一部でも観察されると述べている (pp. 51-52)。
- 11) つまり、アラビア語の母語話者が多数派である地域や国。公用語としてのアラビア語は、基本的に現代標準アラビア語（書き言葉）である。公用語でない地域では、一般的に母語話者が日常的に使用する話し言葉のアラビア語しか存在せず、イスラーム社会でない限り、書き言葉のアラビア語は規範としての影響力はない。
- 12) 「二重言語使用」Diglossia (Ferguson (1959): “Diglossia”. *Word*, 15, pp. 325-340) の概念。アラビア語の話し言葉と書き言葉がラテン語とフランス語のように異なる2言語であることは、言語を構成する各部門（音韻、形態、統語、語彙）から立証可能である。しかし、この区別はアラビア語話者の意識や観念の中にのみ存在する。高階(1998): 「アラビア語研究における若干の視点」(『世界地域学への招待』京都、嵯峨野書院、199-210頁) を参照。カイロ大学の学生や教員が話し言葉で議論した内容を書き言葉で懸命にメモする姿を揶揄すると、彼らは苦笑いをしてこの意識に自縄自縛となっていることを認める。
- 13) al-Sa‘īd Muḥammad Badawī (1973): *Mustawayāt al-‘Arabīya al-Mu‘āṣira fī Miṣr*. al-Qāhira, Dār al-Ma‘ārif. より簡便には、Martin Hinds & El-Said Badawi (1986): *A Dictionary of Egyptian Arabic* [Beirut, Librairie du Liban], pp. VIII-X を参照。バダウィーの考え方と二重言語使用の概念とは矛盾するものでなく、異なる側面を説明する。

まとめれば、「完全な」書き言葉を話す人も「完全な」話し言葉を話す人も、人為的環境以外では現実の社会に見出すのは困難であり、現実の発話では（同一人物であっても）環境の違いに応じて、上記の変種の間を絶えず変異する。外国人に向かって話すアラブ庶民の言葉は、不意に外国人らしき日本語で道を尋ねられ、狼狽して答える私たちの日本語に似ている。

3. 定住民方言に対する遊牧民方言の影響

上で定住民方言と遊牧民方言には違いがあると述べたが、典型的な定住地である首都の話し言葉であるのに、遊牧民方言の特徴を強く持つ方言があることについて述べる。

イスラーム拡大の初期に建設され防壁で囲まれた諸都市の中では、アラブと非アラブを市民とする新しい定住社会が発展し、そこでは土地固有の下層言語の影響を受けつつも、上記で述べた定住民方言型の話し言葉が形成される。しかし、歴史の様々な局面で都市が破局的事件に見舞われた場合は、運よく活力を取り戻すまで都市の発展は中断する。この時、都市としての機能を喪失した土地のアラビア語は定住民方言として発展し続けることはできない。破壊された防壁を越えて遊牧民が往来し、留まった住民の言語に大きな影響を及ぼすからである。

東部方言地域におけるそのような都市は、バグダードである。1258年にフラグのモンゴル軍に抵抗したバグダードはひどく荒廃し¹⁴⁾、長期にわたり遊牧民方言の影響に晒されて強い影響を受けた（gelet ‘I said’）。このため同じイラクの都市でも、北のモスルの言葉とは大きく異なる（qeltu 同）¹⁵⁾。また、同じバグダードでも、定住民方言としての特徴を保つキリスト教徒やユダヤ教徒のコミュニティの話し言葉（qeltu）と異なるのは、これらが相対的に閉じた社会であって、バグダード居住の歴史が異なるためである。

西部方言地域では、「ヒラール部族の西進¹⁶⁾」 تغريبة بني هلال Tagrība Banī Hilāl の結果として同様のことが広範囲に起こり、現在のマグリブ地域の言語地図を複雑にし

14) 14世紀前半（モンゴルによる破壊の後）にバグダードを通過した旅行家イブン・バツータは、荒廃の様を描写できずに、12世紀後半（破壊の前）に訪れたイブン・ジュバイルの旅行記からの引用で糊塗している。

15) gilit 方言、qeltu 方言とも書かれる。元は Haim Blanc (1964): *Communal Dialects in Baghdad* [Cambridge/Mass., Harvard U. P.], p. 5 ff. で提起されたメソポタミア方言区分の重要基準。

16) エジプトに進出した後にファティマ朝8代カリフのアル・ムスタンシルは、チュニジアに残した元家臣（ジリー朝4代アル・ムイッズ）が反旗を翻したため、彼を懲罰する目的で、カルマ特派討伐により上エジプトのナイル川の東に移住させていたヒラール部族にナイルの渡河を命じ（1052年）、ジリー朝領土の略奪を許した。大打撃を受けたジリー朝は、十字軍時代となって地中海情勢が変化しこともあり滅びた。ヒラール部族は主にチュニジアとアルジェリア東部に、後に続いたスライム部族 Banū Sulaym は主にリビアに、マアキル Ma‘qil 部族連合はアルジェリアからモロッコへと移住したので、マグリブ全域に大きな混乱をもたらした。しかし、遊牧民としてのこれらの部族民の移住は、西アフリカ内陸部とサハラ以南におけるイスラーム化とアラブ化（アラビア語化）を完成するという功績を残した。彼らの活躍と武勇は、『ヒラール部族伝』Sirah Banī Hilāl や関連する多彩な口承文芸として語り伝えられている。

た。つまり、この歴史的イベントの前から存在したマグリブの諸都市は、遊牧民方言の影響が少なく定住民方言の特徴を基本的に保持した方言 (pre-Hilālī) の都市 (本稿が扱う方言ではマルタ語)、遊牧民方言の強い影響を受けた都市、旧市街 (メディナ) が定住民方言で新市街は遊牧民方言という都市の3タイプに分かれる。

その上に、このイベント以降に建設されたか発展した都市の場合でも、遊牧民方言の影響が少ない都市 (12世紀半ばからの首都ラバトのモロッコ方言) と強い影響を受けた都市 (13世紀前半からの首都チュニスのチュニジア方言)、旧市街と新市街で言語の特徴が異なる都市 (マラケシュやフェズなど) があるので、マグリブの方言は地理的な基準で分類することが不可能である。

このため、マグリブ地域における都市の建設がヒラール部族西進の前か後かなど、都市や地域の歴史を詳細に把握することは方言研究にとり重要な情報である。

4. ジュバ・アラビア語について

南スーダンのジュバ・アラビア語 Juba Arabic¹⁷⁾ (JA) は、厳密に言えばアラビア語の方言ではなく、多様な言語集団間の共通語 *lingua franca* にすぎない。簡素化したとはいえ、アラビア語の方言は代名詞の接尾形を持ち、動詞にも接尾辞活用 (いわゆる完了形) と接頭辞活用 (同未完了形) がある屈折言語であるが、総体的に見て JA はこの重要な要素を未だ獲得していない。

以前よりサハラ以南ではアラビア語を核とするピジンやクレオール言語¹⁸⁾ が知られていたが、このような言語の存在とアラビア語の話し言葉の成立と拡大に関する説明を統合し、ピジン・クレオール説¹⁹⁾ が提案された。

これらの言語の中ではケニアのヌビ語 (Ki-)Nubi が一番詳しく知られていたが、アラビア語圏と隔絶して久しい現在ではクレオールの段階に留まったままであり、かつ話者人口の明瞭な増大はない。JA に関しては逆に、ジュバ地域の安定が比較的長期に続き、スーダン南部で政治的経済的な中心都市として発展したために急速に話者人口が増大し、現在では南スーダンの主要な言語にまで成長している。つまり、南スーダンではアラビア語の母語話者が絶対的に少数であるため、住民の多数はアラビア語話者に接する機会がないにもかかわらず、JA を使用する人口が急速に拡大したのである。

17) JA の成立と発展のプロセスについては、“Early Steps to Juba Arabic, 1899-1964: Towards a sociolinguistic history of a *lingua franca* in Southern Sudan”との題で、ナイル川沿いに生まれたアラビア語のピジンの変種については、“Pidgins on the Nile: Tracing back the history of European influence on Arabic-based pidgins”との題で、仲尾周一郎氏が詳しく研究発表している。

18) pidgin は異言語間で主に上位者の言語を基に形成される補助媒介言語で、pidgin が母語となれば creole と呼ぶ。これらの過程をピジン化やクレオール化と称し、ピジンが屈折などを獲得し上位者の言語に近くなれば脱クレオール化したとみなす。現段階の JA はピジンとクレオールの混在した pidgin/creole の段階と見なされている。一部で屈折現象を見せるとの報告はあるが、JA 全般の現象ではない。

19) Kees Versteegh (1984): *Pidginization and Creolization: The Case of Arabic*. Amsterdam/Philadelphia, John Benjamins Publishing Co. 説の概略と言語グループに関しては、高階 (1988) を参照。

ところで、イスラーム拡大期におけるアラビア語域の急速な拡大を説明するためには、人口密度の極めて低いアラビア半島から移住した母語話者（アラブ人）の人数と、絶対的多数者である下層言語話者数との人口比率の問題を克服する必要がある。しかし、今まで知られていたアラビア語のピジンやクレオールはいずれも小規模なため、ピジン・クレオール説の有効性が十分に立証されたわけではなかった。

アラビア語史におけるこの大問題を念頭に JA の言語状況を考えると、JA 研究に着目する意味は限りなく大きい。少なくとも100万人を超える話者の規模とかつてない地理的広がりにおいて、(Ki-)Nubi とは状況が根本的に違う。ジュバで進行中の大実験の内部で JA が等質的でありうるはずもなく、今後のあり方は政治的経済的動向に大きく影響を受ける。それゆえ、JA が屈折を獲得して脱クレオール化し、アラビア語の方言としての地位を獲得するか否か定かでないのも事実である。しかし、話者数と地理的範囲の規模から、JA はアラビア語史と方言研究の両面で座視できない、リアルタイムで進行中の歴史的な大事件であると言える。

5. 記号・略号、アラビア語表記法、その他

1) 一般的な記号・略号

- 語彙の構成要素 hyphen used to show grammatical elements within a word
- 代名詞・動詞で女性形欠如（男女同形） *f. is identical with m.*
- 該当例が見つからない not found in the source used
- 該当例は存在しない non-existent
- ∅ ゼロ記号 zero
- ~ 交替形式 variant
- x/y 左右が対の場合は区切り、または同意語 pair, break or homonym
- ↓ 対応する欄の下にある↑を参照 refer to ↑ below in the same column
- * 近接の注を参照 refer to the nearest comment, downwards or upwards
- [] 対照項目、参考情報 subitem for contrast, or items for reference
- () 補足説明 brief note
- Yoda 依田純和氏の教示による according to S. Yoda
- Pales. パレスチナ方言 Palestinian dialect
- ス スーダン方言 Sudanese
- エ エジプト方言 Egyptian
- [女] 主として女性語 female speech in the main
- Ⓢ 定住民方言 sedentary dialect
- Ⓤ 遊牧民方言 nomadic dialect

2) 主要アラビア文字の転写法（[]内は IPA）

ء	ث	ج	ح	خ	ذ	ش	ص	ض	ط	ظ	ع	غ
ʾ	t̤	ǧ	ʒ	ħ	ħ	d̪	ʃ	ʂ	ṭ	ẓ	ʿ	ġ
[ʔ]	[θ]	[dʒ]	[ʒ]	[ħ]	[χ]	[ð]	[ʃ]	[s]	[d̪]	[t̪]	[z]	[ɣ]

3) アラビア語方言の表記法

Zeitschrift für Arabische Linguistik の方式による²⁰⁾ こととし、主なものは次のとおりである。なお、西部方言の語彙単位の音色は、いずれかの軟口蓋化子音の表記により示される。

č[ʧ]; ɖ, r, l (対応する子音の軟口蓋化〔強調化〕音)

4) マルタ語表記法

マルタ語の正書法による。マルタ語は母音字5, 子音字24, 記号1 (') の計30種類の記号を用いる。注意すべき文字のみ掲げる。母音の長さを明示する場合は、â/a'[a:] のように表記される。

č [ʧ], ġ [dʒ], h [ø], ħ [ħ], j [j], ġħ [ø], q [ʔ], x [ʃ], ż [z], z [ts ~ dz]

5) ジュバ・アラビア語表記法

Nakao (2011) に従う²¹⁾。ジュバ・アラビア語には27音 (母音5, 子音22) あり、その主なものと3種類の声調を示す。声調は、スーダン方言の母音の長さ (長/短) や強勢を概略的に反映する。

ˈ [ʔ], c [ʧ], j [j], š [ʃ], ɳ [ɳ]; a (低), á (昇り), â (降り)

6) その他

表中の方言データのすべては、ネイティブ²²⁾に口頭確認した若干のエジプト方言例を除き、次に掲げる出典リストによる。しかし、引用元文献の明示は多くのスペースを取るのので、断念せざるをえない。このほかに、次の点にも留意されたい。(1) オリジナルの表記法は上記の方式に統一されている。(2) 対照を容易にするため、多くの場合、語の構成要素をハイフンで分割しているが、同時に、表のスペースの関係で行内に納まらない場合にも、同じハイフンで語を分割し行送りするケースがある。なお、マルタ語で冠詞後のハイフンは正書法によるものである。(3) 元データの曖昧母音表記 [ə] は、支障がない範囲で近似母音に変更されている。

6. 方言データの出典²³⁾

<エジプト方言>

Abdel-Massih, Ernest T., Zaki N. Abdel-Malek, El-Said M. Badawi (1979): *A Reference*

20) ただし、マルタ語正書法が x [ʃ] と j [j] を用いるため、次の点に注意。(1) ɣ は x/h でなく、本稿では h で表記する。(2) スーダン方言の ɟ 対応音は j [j] とするべきであるが、スーダン方言でも ġ としている。上エジプトとスーダンの voiced palatal plosive [j] に関しては W. H. T. Gairdner (1925): *The Phonetics of Arabic*. Humphrey Milford, OUP. を参照のこと (特に pp. 12, 14-15, 23-24)。方言における多様な ɟ 対応音の中で調音位置が中間であることから、[j]こそ ɟ の本来の音であると述べている。

21) Nakao (2011) は Ver. 2 (2014 Apr)で若干の修正が行われているが、それを反映していない。仲尾氏の好意で声調表記は Ver. 2 の表記にしたので、厳密には Nakao (2011)と対応しない。

22) Hosam Qasim 氏と Abd el-Rahman el-Sharqawi 氏 (ともに大阪大学外国語学部外国人特任教員、カイロ大学文学部アラビア語・アラブ文学科) に感謝する。

23) 当初は参照が容易な文献の範囲に限定していたので、もとより網羅的でない。しかし、方言ごとに事情が異なることと「能動分詞+接尾形」を確認する必要から、一部で古い文献も含む。

- Grammar of Egyptian Arabic*. A Comprehensive Study of Egyptian Arabic. Vol. 3: a preliminary edition. Ann Arbor, Center for Near Eastern and North African Studies, The Univ. of Michigan.
- Ahmed, Mokhtar (1983): *Lehrbuch des Ägyptisch-Arabischen*. 2., durchges. Aufl., Wiesbaden, Otto Harrassowitz.
- Hinds, Martin & Badawi, El-Said (1986): *A Dictionary of Egyptian Arabic Arabic-English*. Beirut, Librairie du Liban.
- Mitchell, T. E. (1960): *An Introduction to Egyptian Colloquial Arabic*. Repr. 1978 (1st ed. 1956), Oxford, Clarendon Press.
- Mitchell, T. E. (1962): *Colloquial Arabic. A complete course for beginners*. Teach Yourself Books, 10th impression, 1980, London, Hodder and Stoughton.
- Salib, Maurice (1981): *Spoken Arabic of Cairo*. Cairo, The American Univ. in Cairo Press.
- Spitta-Bey, Wilhelm (1880): *Grammatik des Arabischen Vulgärdialektes von Aegypten*. Leipzig, J. C. Hinrichs'sche Buchhandlung.

<シリア方言>

- Ambros, Arne (1977): *Damascus Arabic*. Afroasiatic Dialects vol. 3, Malibu, Undena Publications.
- Barthélemy, Adrien (1969): *Dictionnaire Arabe-Français. Dialectes de Syrie: Alep, Damas, Liban, Jérusalem*. 5 fasc. 1935-1964, Paris, Paul Geuthner.
- Denizeau, Cl. (1960): *Dictionnaire des Parlers Arabes de Syrie, Liban et Palestine* (Supplément au Dictionnaire Arabe-Français de A. Barthélemy). Étude Arabes et Islamiques: Études et Documents III. Paris, Éditions G-P Maisonneuve.
- Grotzfeld, Heinz (1965): *Syrisch-Arabisches Grammatik (Dialekt von Damaskus)*. Porta Linguarum Orientalium Neue Serie VIII, Wiesbaden, Otto Harrassowitz.
- Jaschke, Richard (1955): *English-Arabic Conversational Dictionary*. 1st publ. 1955, 5th paperback print. 1982, New York, Frederick Ungar Publ. Co. [Syrian and Egyptian two dialects listed side-by-side, very useful if used with caution.]
- Stowasser, Karl & Ani, Moukhtar (1964): *A Dictionary of Syrian Arabic: English-Arabic*. Washington, D.C., Georgetown University Press.

<パレスチナ方言(シリア方言参考)>

- Elihay, J. (2004): *The Olive Tree Dictionary. A Transliterated Dictionary of Conversational Eastern Arabic (Palestinian)*. Jerusalem, Minerva Instruction & Consultation.
- 依田純和 (2011): 『アラビア語パレスチナ方言入門』大阪大学世界言語研究センター、大阪大学出版会.
- (2012): 『アラビア語エルサレム方言文法研究』大阪大学世界言語研究センター、大阪大学出版会.

<イラク方言>

- Erwin, Wallace M. (1969): *A Basic Course in Iraqi Arabic*. The Richard Slade Harrell Arabic Series: 11, Washington, D.C., Georgetown University Press.
- van Ess, John (1938): *The Spoken Arabic of Iraq*. 2nd ed. (1st ed. 1917), repr. 1975, Oxford, OUP.
- Malaika, Nisar (1963): *Grundzüge der Grammatik des Arabischen Dialektes von Bagdad*. Wiesbaden, Otto Harrassowitz.
- McCarthy, R. J. & Raffouli, Faraj (1964): *Spoken Arabic of Baghdad*. Part 1, Beirut, Librairie Orientale.
- Woodhead, D. R. & Beene, Wayne (1967): *A Dictionary of Iraqi Arabic: Arabic-English*. The Richard Slade Harrell Arabic Series: 10, Washington, D.C., Georgetown University Press.

<UAE 方言>

- Qafishe, Hamdi (1975): *A Basic Course in Gulf Arabic*. Tucson/Arizona, The Univ. of Arizona Press.
- (1977): *A Short Reference Grammar of Gulf Arabic*. Tucson/Arizona, The Univ. of Arizona Press.
- (1979): *Gulf Arabic: Intermediate Level*. Tucson/Arizona, The Univ. of Arizona Press.

<スーダン方言>

- Hilleson, S. (1935): *Sudan Arabic Texts with Translation and Glossary*. Cambridge, Cambridge Univ. Press, Paperback 2011.
- Persson, Andrew & Janet (1979): *Sudanese Colloquial Arabic for Beginners*. Horsleys Green, Summer Institute of Linguistics, 2nd ed. 1980.
- Tamis, Rianne & Persson, Janet (2013): *Sudanese Arabic - English, English - Sudanese Arabic. A Concise Dictionary*. Dallas/Tx, SIL International Publications.
- Trimmingham, J. Spencer (1946): *Sudan Colloquial Arabic*. Oxford, OUP, 1st ed. by Church Missionary Society, 1939.
- عون الشريف قاسم (١٩٨٥): قاموس اللهجة العامية في السودان. الطبعة الثانية (الأولى ١٩٧٢)، القاهرة، المكتب المصري الحديث.

<Juba Arabic>

- Nakao, Shuichiro (2011): *Juba Arabic Introductory Course*. Trial Edition, n.p. (private printing). [公開された Ver. 2 (2014 Apr) の前の版、新版での追加修正は本研究に反映されていない]
- (2012): “Revising the substratal/adstratal influence on Arabic creoles”, *Challenges in Nilotic Linguistics and More, Phonology, Morphology and Syntax*. ed. by Osamu Hieda (Studies in Nilotic Linguistics Vol. 5), pp. 127-149.
- 仲尾周一郎(2010): 「ジュバ・アラビア語によるパリ民族の民話」、大西・稲垣編『地球

研言語記述論集2』言語記述研究会、総合地球環境学研究所インダスプロジェクト、pp. 39-72.

<チュニス方言>

- Ben Abdelkader Rached (1977): *Peace Corps English-Tunisian Arabic Dictionary*. Washington, D.C., Peace Corps
- Singer, Hans-Rudolf (1984): *Grammatik der Arabischen Mundart der Medina von Tunis*. Berlin/New York, Walter de Gruyter.
- Stumme, Hans (1896): *Grammatik des Tunisischen Arabisch*. Leipzig, J. C. Hinrichs'sche Buchhandlung.

<モロッコ方言>

- Harrell, Richard S. (1962): *A Short Reference Grammar of Moroccan Arabic*. Washington, D.C., Georgetown University Press.
- Harrell, Richard S. (1965): *A Basic Course in Moroccan Arabic*. Washington, D.C., Georgetown University Press.
- Harrell, Richard S., ed. (1966): *A Dictionary of Moroccan Arabic: Moroccan-English*. Washington, D.C., Georgetown University Press.
- Harvey Sobleman & Harrell, Richard S., ed. (1963): *A Dictionary of Moroccan Arabic: English-Moroccan*. Washington, D.C., Georgetown University Press.
- Mercier, Henry (1951): *Dictionnaire Arabe-Français. Méthode Moderne d'Arabe Parlé Marocain* IV, 2e. éd., Rabat, Les éditions la porte.
- Willms, Alfred (1972): *Einführung in das Vulgararabische von Nordwestafrika*. Studies in Semitic Languages and Linguistics IV, Leiden, E. J. Brill.

<マルタ語>

- Aquilina, Joseph (1965): *Maltese*. London, Teach Yourself Books.
- (1990): *Maltese-English Dictionary*. 2 vols.(vol.1: 1987, vol.2: 1990), Valletta (Malta), Midsea Books.
- Bugeja, Kaptan Pawlu (1988): *Kelmet il-Malti*. 3rd ed., Floriana (Malta), Associated News (M).
- Schabert, Peter (1976): *Laut- und Formenlehre des Maltesischen anhand zwei Mundarten*. Erlanger Studien Bd. 16, Erlangen, Verlag Palm & Enke.
- Sutcliffe, Edmund F. (1936): *A Grammar of the Maltese Language*. London, OUP.

7. アラビア語主要方言の言語特徴対照表

表の中央にある「対照する言語特徴」欄に掲げる言語特徴について、左右に配置された首長国連邦(UAE)からマルタまでの各方言(各国の首都方言)の形式が容易に対照可能となるようにデータを配列することを原理とした。各項目を取り上げ

る意味は対照表の性格から特に説明しない²⁴⁾が、最低限は表中に書き込んでいる。

また、この欄には、左右に掲げる方言データに対応する書き言葉（現代標準アラビア語）の形式が参考として示されている。方言の形成過程を示すために必要な場合は、現代標準語でなく古典語の語彙を掲げている。個別の方言のみに対応する場合やスペースが許さない場合は、該当方言のデータの隣に示す場合もあるが、書き言葉への対応はまず「対照する言語特徴」欄を参照されたい。

左右対照を目的とする関係から、スペースが許さない²⁵⁾例外を除き、同一項目は同一行に記載することを原則としている。このため、対応する現象がなく空白が生じる場合、単一ないし若干の方言だけの現象でも興味深い現象を記載した。

最後に、前項の「方言データの出典」に見るとおり、利用可能な資料の制約から出版年の古い文献を含み²⁶⁾かなりの時間差がある。また、近年におけるメディアの影響力の増大と急激な社会変化は、アラブ諸国の話し言葉に強い影響²⁷⁾を与えている。このため、記録された時間の半世紀以上に及ぶ差や世代間の相違は避けがたい。このことは、同一方言だけではなく異なる方言間においても言え、データの等質性の観点からは問題となる。しかし、多くの方言を対照させて検討する本稿の場合、今では地方のみで使用とか老年層のみが使う等の現象²⁸⁾は、逆に多くの示唆を含むことがある。このため、個人的関心にもよるが、そうしたデータも含むことに留意されたい。その場合は、スペースが許す範囲で短く注記している²⁹⁾。

24) 項目の大半はアラビア語方言研究の基本事項として、すでに説明した。これ以外にも個人的関心から取り上げた項目や、教育用の目的で書き入れた項目なども含まれている。

25) JAを除きどの話し言葉も、話者の母語として単純ではない。しかし、多様なアラビア語話し言葉の世界を概観するには、関連事項のすべてを記載することはできない点を了解願いたい。またその複雑さゆえに意図せざる誤りがあるとすれば、その責任は執筆者に帰する。

26) Trimmingham (1946) が動詞の女性複数について “... the men usually use the masculine plural when speaking of women. It is, however, always used by the women themselves.” (p. 65) と述べるように、古くても優れた観察がある。

27) 現在カイロの女性は *Egp.* ‘āyiz/‘ayz-a (*m./f.*, ～したい) と言い、‘āwiz/‘awz-a は男性が使う。

28) 1980年代初頭のカイロで聞かれた *Egp.* dōla, dōlan (指示詞複数) は、今では老年層か地方のみである。さらに Abd el-Rahman el-Sharqawi 氏 (注22) の祖母が使った ‘āmnawwil 「去年」 [cf. Mitchell (1962), p. 211] は今ではもう聞かれなさそうであるが、広いアラブ世界におけるこの形式の分布を裏付ける。

29) アラビア語は歴史の幸運に恵まれた結果、7世紀以来の言語データが豊富にある。また、未調査の地域も多く残るが、近年は話し言葉についても相当に詳しい調査がある。それらは変化発展の限りない拡散を示すように見えるが、以下のデータをよく観察すれば、総体として、セム語としてのアラビア語が持つ言語的可能性の範囲内にあると言える。さらに重要なのは、アラビア語の話し言葉が示す言語変化の多くが、古代の諸セム語の中にも観察される事実である。つまり、アラビア語の話し言葉が示す現象は、他のセム語が過去に迎った変化の再現であるとも言える。このためアラビア語方言の研究は、紀元前の言語や他の現代セム諸語の研究にも、同じセム語の通時的研究として大きな貢献をすることとなる。

西 方 言			東 方 言	
Maltese (Pre-Hilālī)	Moroccan ㊦	Tunisian ㊦遊	Juba (pidgin/creole)	Sudanese ㊦(遊)
q [ʔ] qalb 心, baqra, qamar (f) cf. pinna ペン, flit 少ない(< fatīt パン屑), kafè コーヒー	㊦[q] qlam, qlil, qehwa ㊦[g] begra, gemra	㊦[q] qlam, qlīl, qahwa ㊦[g] bagra, gamra	㊦[g] gálam, (besīt 少し), gáhawa, bágara, gamará degīg, géliba gúlu (老年層) cf. galī (↓ 1) [k] burtukân, kátulu, wókit, fākat だけ < faqaṭ فِقْطُ rákam ~ rágam cf. gába, samaga 魚	㊦ [g] galam, galīl, gahwa, bagara, gamar (gamara/gamrā 月光) cf. basīt 少しの بَسِيط dagīg 粉, galib 心 < daqīq دَقِيق, qalb قَلْب gāl/gut-ta (< *gul-ta) [k] burtukân ~ burtgân, katal, wakit < faqaṭ فِقْطُ [y] raġam, šadāġa ġāba غَابَة 森/茂み samaka سَمَكَة 魚 1 匹
Kajr(u) Ġerusalem il-Q/Koran	l-qahira l-qods l-qor'an qšem 時計の1部(=5分)	il-qāhra il-quds qur'an qism	--- --- --- ġisim 部署	al-ġāhira --- al-qur'an gisim
tnejn, tewm, tlieta deheb hadit	tnin [žuž], tum, tlata dheb mutellat ħdit telmid, 'ustad	㊦: 摩擦音を保持 tnīn [zūz], tūm, tlāṭa ~ tlāṭa (異化), dhab muṭallit ħdīt tilmīd, 'ustād	itnīn, basala-tūm, talāta dāhab, dīkin ~ dīgin --- cf. sakāfa سَكَاة ---, ---, ustās ~ ustāz	㊦ itnēn, tūm, talāta dahab, dīgin < dāqn دَاقْن 顎髭 musallas cf. saqāfa 文化 ħadīs tilmīz, ustāz
art/dahar; ---, ---	ḍ = ظ ض 'erḍ/ḍher; ḍabeṭ, meḍbuṭ	ḍ = ظ ض 'arḍ/ḍhar; ḍābiṭ, maḍbūṭ	árd/dáhar	㊦ ḍ = ظ ض arḍ/dahar; zābiṭ ~ ḍābiṭ, mazbūṭ
ġ [dʒ] raġel/rġiel 男-夫, ġemel, ma'(< مَع) ġenb, ġewwa ~ ġo ~ ġe cf. ziemeł 馬 < زَامِل 駄馬	ž[ʒ] ražel/režžala~ržal 男-夫, žmel, f-ženb, --- (l-daħel) gisem siġra	ž[ʒ] rāžil/ržāl 男-夫, žmal, bi-žnab, --- (dāħil) bdān بَدَن 体 sužra 木 zūz زَوْج クルミ zūz زَوْج 対 2 zāz/izūz زَاذ 入る	j[j] rájil ~ rágil 男, ---, ---, júwa; tájir 商人, jílid ~ gílid 皮, mēsjid, jáma 大学, jemīl, já, jinéna [g] 稀少 < エ方言?	ğ[j]* rāġil/ruġāl 男-夫, ġamal, ġamb, ġūwa ġinēna ġisim šidar(a) ~ šaġar(a) 木 * 有声硬口蓋破裂音: 調音は[dʒ]より後ろ

対照する言語特徴	東 方 言			
	Egyptian ㊦	Syrian ㊦	Iraqi ㊦遊	UAE 遊
1) ق q qalam قلم ペン, qalīl قليل 少ない, qahwa قهوة コーヒー, baqara بقرة 雌牛, qamar قمر 月, qāla قال /qultu قلْتُ , qarya قرية 村, šarqīy شرقى 東の, qidr قدر やかん, rafiq رفيق 仲間, šidq صديق 真実, burtuqān بُرتُقان オレンジ, qatala قَتَلَ 殺す, raqm رقم 数字, faqīr فقير 貧しい, waqt وقت 時, šadāqa صداقة 友情, 'al-qāhira القاهرة カイロ, 'al-quḍs القدس エルサレム, al-ǧuzān الغُرَازن コーラン, qism قسم 部分・部署	[ʔ] 'alam, 'ulayyil, 'ahwa, ba'ara, 'amar 月 cf. 月光 'amara < *qamara, 'amarāya < qamrā قَمَرَاءُ 'āl/'ul-t 'he/I said' 'ism (< qism) 交番 il-qāhira il-'uds il-qur'ān qism	[ʔ] 'alam, 'alīl, 'ahwe, ba'ara, 'amar 'āl/'ul-t ('əl-t) il-qāhra il-'uds qur'ān qism	㊦[q] qalam, qalīl, baqara ㊦ [g] gahwa, gumar (gamra 月光) gāl/gelet (㊦ qāl/qeltu) ㊦少数[dʒ] ġarya, šarġī l-qāhira l-quḍus qur'ān, qisim	[g] galam, galīl, gahwa, bgara, gumar (gamra 月夜), l-'Irāg イラク gāl/gilt ~ gult [dʒ] šarġi, ġidir, riġġ, šidġ [ɣ] ġarya, raġam, faġīr, waġt ~ wagt l-qāhira l-ğuds qur'ān qisim
2) ت t > ṭ, d ذ z > ḏ ittan 2, ئوم نونニク, ثلاثة 3, ذهب 金 [文化語] 教養語/日常語 مئالت 三角, حديث 話し تلميذ 生徒, أستاذ 教授	itnēn, tōm, talāta dahab musallas/mitallit ḥadīs/haddūta (小話) tilmīz, 'ustāz	tnēn, tūm, talāta dahab muṭallaṭ/mtallat ḥadīs/hādīt, ḥaddūte tilmīz, 'ustāz	㊦: 摩擦音を保持 itnēn, tūm, tlāte (異化), deheb muṭallaṭ ḥadīt tilmīd, 'ustād	tnēn, tūm, talāta dahab muṭallaṭ ḥadīt tilmīd, 'ustād
3) ض ḏ / ظ z 'ard أرض土地/zahr ظهر背; dābiṭ ضابط 将校, maḏ-būt مضبوط 正確な	ض = ظ ḏ 'arḏ/ḏahr; zābiṭ ~ zābiṭ ~ dābiṭ, mazbūt ~ mazbūt <i>Türk.</i> zabīt, mazbut	ض = ظ ḏ 'arḏ/ḏahr; zābet ~ dābet, mazbūt	ض = ظ ḏ 'arḏ/ḏahr; ḏābuṭ, maḏbūt	ض = ظ ḏ 'arḏ/ḏahir; ḏābiṭ, maḏbūt
4) ح [dʒ]* رجال/رجل 男, حمل 駱駝, خنب 'near', جاهل 無知な, مسمج モスク, وجهه 金曜, موج 波, جامعة 大学, جميل 美しい, جاء 来る, خبئة 庭, جسم 体 šaġara شجرة 木 * 有聲後部歯茎破擦音	g[g] “Land of Gīm” rāgil/riggāla 男-夫, gamal, gamb, gūwa 中に cf. ġaww حو 窪地/内部, dāhil داخل 内部 gism	ž[z] rizzāl/rzāl 男-夫, žamal, žamb, žuwāt žism	ğ[dʒ] riğġāl/riyāġīl, ġimal ğawwa cf. raġil/rġūla 夫 ㊦少数[j]: yamm ‘near’, riyāġīl (上の pl.) ğisim	ğ[dʒ]* [j] rayyāl/rayāyīl 男, bi'tir, ----(dāhil) cf. raġil/rġāl 夫 yamm, yāhil, m(a)sīd, l-yim'a, mōy (< mawġ), wēh (< waġh) ğisim [j]/dʒ] (自由交替) yām'a/ ġām'a, yamīl/ġamīl, yā/ġā * 書き言葉,出稼ぎ者の別方言, 外来語

hǧieǧ (古形 zǧieǧ) ǧzira [≠ ǧ] Alǧerija Alǧerin	zaž ~ žaž žazira dzayer dziri	zibs جنس 石膏 gzāz ガラス(片) žazīra (一部 dzīra) dzāyir dzīrī cf. アルジェ方言: dzāyer/dzīri	gizáza --- --- ---	gizāz (-a) (瓶) ǧazīra --- ---
jum, sajf, bejt(m.) 屋根 [dar 家(f.)]	yum, šif, bit (m.)部屋 [dar 家(f.)]	yūm, šif, bīt (f.) 部屋 [dar 家(f.)] dār دار 館/屋敷(f.)	yóm, -, bēt	yóm, šēf, bēt
skola 学校	m-dér-ša (伝統的な) 寮形式の学校; me-drá-ša (普通の)学 校(どちらも pl. mdares) [Yoda]; cf. sekwila (学校の廃語)	mádr-sa	(声調) méderesa ~ mederésa * エ方言の影響を示 す声調実現例もある: rābuna~ rabúna<エ rabb -ú-nā 我らが主 رَبُّنَا	mád-ra-sa
*ā に強い影響: bieb باب 戸, kittieb كُتِب 作家, biered بارد 寒い siegha ‘hour’ /arlogg 時計 imāla なし: tallab طَلَب 乞食 iǧ-čpar 霧, iz-zokkor 砂 糖 cf. il-Gimgha 金曜, 週 ・ gh[ø] (<ع, ڨ)に隣接 する母音の奥舌母音 化: gharef عارف 賢い ・ 有声音の無声化: bieb, biered (後続の有声 音がない場合)	sa‘a ‘hour’ /magana 時計 語単位で軟口蓋化(強 調音化): plain/flat ž-žami‘a 大学	sā‘a ‘hour’ /mungāla 時計 音節単位 (隣接音に影 響) iž-žām‘a famma そこに (↓)	若干例: dé (<ス da)こ れ, kida ~ kide (<ス kida)このように sâ 時計 <冠詞なし> [隣接諸語から借用] /ny/ nyákamu 襲う(? < naqama نَقَمَ 復讐する), gútuny ~ gútun 綿(<ス guṭun فُطُن) /d/ dōǧōǧ ~ dōǧōǧ 後頭 /b/ kábókábók ~ kábó- kábók スイレン科植物 /gb/ gbángirí ~ gwángirí ~ bángirí 下顎 /kp/ kpete ~ kwete ~ pete (古来の) ビール	sā‘a 音節単位 aǧ-ǧām‘a ・冠詞 al- (子音連続回 避-a-): sūǧ a-l-hartūm ハルツームの市場, umm-a-na 私達の母 ・ bē/lē (prep. 冠詞な く単独) bē kam lē umduṛmān ウムドル マーンまでいくら?

zuġāz زُجاج ガラス ġazīra جَزِيرَة 島 'al-ġazā'ir الجزائر ġazā'irīy جَزَائِرِي	'izāz (教養語 zugāg) ġizīra il-gazāyir アルジェ(リア) gazayri 同上の; 島の	'izāz ~ 'izāz žazīre iž-žazā'er žazā'iri	gizīz ~ gizāz ġazīra <i>cf.</i> ġ-ġazīra* l-ġazāyir ġazā'iri * ジャジーラ地方	<i>cf.</i> glaṣ グラス ġām (< Pers.) yizīra ~ ġizīra il-ġazā'ir ---
5) 二重母音 yawm يَوْم 日, ṣayf صَيْف 夏, bayt بَيْت 家	yōm, ṣēf, bēt	yōm, ṣēf, bēt <i>cf.</i> qēz 旱魃	yōm, ṣēf, bēt <i>cf.</i> gēḍ 酷暑の時期	yōm, ṣēf, bēt <i>cf.</i> gēḍ 夏 < qayz قَيْظ 真夏
6) 強勢 mad-ra-sa مَدْرَسَة 学校 [pl. madāris مَدَارِس]	mad-rá-sa	mád-ra-se	mád-ra-sa	mad-rá-sa
7) 他の音韻現象 [imāla] الإِمَالَة 軟口蓋化子音(強調音) がない場合 sā'a سَاعَة 時/時計 [軟口蓋化子音の影響] [太陽文字] جامعة 大学, جُمُعَة 金曜, 週 [その他] kam كَمْ いくら, katif/kitf كَتِف / كَتْف 肩, kabīr كَبِير 大きい, sammāk سَمَّاك 漁師 ganīy غَنِي 裕福な, 'al-maġrib المَغْرِب モロ ッコ, mašġūl مَشْغُول 忙 しい, ġannā غَنَى 歌う [t ⇄ f ت ⇄ ف] <i>cf.</i> falġ < تَلْج talġ 雪(Siirt トルコ); fāf < ثَلَاث talāt '3' (Rangun イラク出身)	sā'a 音節単位 ig-gam'a, ik-kitāb 本	sā'a <i>cf.</i> Pales. sē'a 音節単位 iž-žām'a ~ il-žām'a • ك > ċ 半島からシリア砂漠に かけ⊕に広がり、パレス チナの一部も(分布概略 図を参照); 「シリア方 言」には影響なし tumm 口 (↓)	sā'a 音節単位 ġ-ġāmi'a, ċ-čelib 犬 • ك > ċ [2f. sg./pl.] bēt-ič/-čēn あなた/達の家 <i>cf.</i> -ek/-kum (m.sg./pl.) [前舌母音] čam, čitif, kebīr /čibīr	• 重子音>単子音化 *mdar/ris-a > mdars-a 女 教師, *kil/-hum > kil-hum 彼ら全て sā'a 音節単位 ič-čāy 茶 <i>cf.</i> il-ġām'a ~ il-yām'a • ك > ċ [2f. sg.] bēt-ič [前舌母音] čam, čatf, čibīr, sammāč • ق > ġ qani, l-maqrib, mašqūl, qanna ṭamm 口; [Bahraini Shi- ite] l-laṭnēn > l-lafnēn 月 曜, tāni > fāni 別の, ṭilt > filf '1/3'

8) 代名詞 [独立形]				
3 sg. m./f. /pl. (m./f.)	hūwa/hīya /humma	hūwe/hīye /hinne (humme)	hūwa/hīya /humma/<hinna>	huwa/hiya /hum(ma)/hin*
2 sg. m./f. /pl. (m./f.)	'inta/'inti /'intu	'inte/'inti /'intu	'inta/'inti /'intu/<'inten>	'inta/'inti /'intu(m)/'intin*
1 sg./pl.	'ana/'iḥna	'ana/niḥna ('iḥna) (Pales.)	'āni/'aḥna ＜一般的でない＞	'āna/niḥin Qatari: hūwa/hīya, 'int, 'iḥna, ḥinna Bahraini: hūwa/hīya /humma, 'āni/'iḥna * f. pl. を区別しない人も
[// : 主語否定]				
3 sg. m. <i>he is not ...</i>	ma-hū-š	mā hūwe, mā-hu, mā-u		---
3 sg. f.	mahīš	mā hīye, mā-hi, mā-i		---
3 pl. (m./f.)	mahummāš			---
2 sg. m./f. 2 pl. (m./f.) 1 sg./pl.	mantāš/mantīš /mantūš mānīš/maḥnāš			minta/minti /mintu/mintin māni/miḥna
[// : 疑問詞の後]				
	['an- <i>which</i> の後ろ] 'an-hu/hi/hum どの？	man-u/i/(h)in 彼/女/等は誰?; 'an-u(m., f.)/-i(f.)/-on (pl.);	min-ū, šin-ū(m. & f.) 誰/何が?; yā-hū/hī (m./f.) どの？	min-u(<hū)誰?; [Bahraini] š-in-(h)u m., šinhi f. 何が?
[接尾形]				
3 m./f. /pl. (m./f.)	-u[-h]/-ha /-hum	-o[-ø]/-(h)a /-(h)on	-a[-ø]/-ha /-hum</-hin>	-a[-ø]/-ha /-hum/-hin
2 sg. m./f. /pl. (m./f.)	-ak[-k]/-ik[-ki] /-ku(m)	-ak[-k]/-ek[-ki] /-kon	-ak[-k]/-ič[-č] /-kum</-čen>	-ak[-k]/-ič[-č] /-ku(m)/-kin
1 sg. /pl.	-i[-ya] (動詞: -ni) /-na	-i[-yi] (動詞: -ni) /-na	-i[-ya] (動詞: -ni) /-na	-i[-y(a)] (動詞: -ni) /-na
* 各方言[]内は母音後	cf. 複数-īn への接尾: ṭabbāḥ-īn (bitū')-ak 君の料理人達; 動詞機能の分詞に接尾不可: mudarris-īn bitū'-ak 君の先生達 (↓)	cf. Pales. -n > -m		*šāf-ha/hum>šāf-fa/fum, *šif-ha/hum>šifit-ta/tum, *bēt-ha > bēt-ta
[// : 疑問詞の後]				
حَلَّة 寒村	'inta fēn-ak 一体どこにいたのか	wēn-o/hon 彼/等はどこ？	wēn-ak 君はどこ？	wēn-a/hum 彼/等はどこ？
How ... [再帰代名詞]	'izzayy-ak/ik/uku(m) (m./f./pl.)	kīf/šlōn-ak	šlōn-ak cf. 名詞の <i>kēf</i> : šlōn kēf-ak?	
nafsu-hū نَفْسُهُ; 'anfusuhum أَنفُسُهُمْ 彼; 彼ら自身	nafs/zāt-u; -ū-hum cf. 'afan-dī-na rās-u 我らが国王自ら	nafs/zāt/ḥāl-o; -on	nafs-a; nafs(nfūs)-hum zāt/rūḥ-a; -hum	rūḥ-a; -hum

dan(a)/din(a) /dawn(a) + il-: <i>dal</i> -(<dan il-) ktieb, <i>dil</i> -(< din il-), <i>dawl</i> - (< dawn il-) 古形: he-dan(a)...	hada/hadi /hadu + il-: <i>had l</i> - (<i>m./f./pl.</i>) had l-weld	hādā(ya)/hāḏī(ya) /hāḏūma + il-: <i>hal</i> - (<i>m./f./pl.</i>), <i>hāḏil</i> - (<i>sg. m./f.</i>) <i>hal</i> -ktāb = <i>hāḏil</i> ktāb = il-ktāb <i>hāḏā</i> = <i>hal</i> -ktāb <i>hāḏā</i>	dé /dêl (老年層は dōl も)	da/di /dêl al-galam <i>da</i> この鉛筆
dak(a)/dik(a)/dawk(a)	hada-k/hadi-k/hadu-k + il-: (<i>ha</i> -) <i>dak-l</i> - weld/bent, (<i>ha</i> -) <i>duk-l</i> -ktub	hā(ḏā)ka/hāḏīka/ hāḏūkum, hāḏumka + il-: <i>hākil</i> -/(<i>ha</i>) <i>kil</i> -ktāb	dāk	dāk/dīk /dêlāk
hawn	hna(-ya)	hūn-i/-īya; hāwn(i) [;女]	īni	hina
hemm	temma(-ya,-k)	遠い: ḡādī(-ka) 眼前: ṭamm-a/-īka, famm-a/-īka [; 女] (↑)	ināk	hināk
hekk	hakda	hakka	kída	kida, kadi
xi, x-	aš, š-	āš	sunú	š(i)nū
	aš-en-huwa > šnuwa/šnu; -hiya > šniya/šni; -huma > šnuma	šnūwa/šnīya/šnūmā		
liema	ina, (a)š-men	āna	yatú ~ yatu	yāt-u</-a> </f.>
min	škun (lli) <i>prep.</i> + men	škūn	munú	min-u</-i/-um/-im> </f.sg./pl.m./pl.f.>
meta	weqt-aš, fuq-aš, 'imta	waqt-aš	mitên, yatú zāman	mitên
fejn	fayn, fin	wīn, fīn	wên	wên-u</-a/um/an> </f.sg./pl.m./pl.f.>
mnejn	mnayn, mnin	mnīn	wen-ú (↑ 3)	min wên
ghala/ghaliex	'l-aš, laš, liya	l-wāš, 'l-aš	leé, ašan šunú, ma-lú	lē šinū
kif	kif, kif-aš	kīf-aš	kêf ~ kefin	kêf
kemm	š-ḥal	qadd-aš	kám	kam
b-il-kemm, b'kemm	be-š-ḥal	b-qadd-aš	be kám	bē kam
kemm + <i>pl. noun</i>	š-ḥal d- + <i>pl. noun</i>	qadd-aš min + <i>sg. noun</i>	kám + <i>noun</i>	kam + <i>sg. noun</i>
kemm-il + <i>sg. noun</i>	š-ḥal men + <i>sg. noun</i>			
wiehed tifel/ wahd-a tifla	ši weld/bent waḥed l-weld/bent (<i>m./f.</i> 冠詞?)	ši wāḥid wlad/ waḥd-a bnayya	(性/定性の区別なし) wāḥid wéled ~ wéled wāḥid ~ wéled tání	ø walad ø bitt
tifel wiehed/ tifl-a wahd-a cf. <i>cert</i> -a persuna ある人	weld waḥed/ bent weḥd-a	wlad wāḥid/ bnayya waḥd-a cf. <i>faṛd</i> dār 同じ家	wāḥid wéled cf. wéled dé その男の子 biniya 女の子	walad wāḥid/ bitt wāḥd-a

9) 指示詞 this (<i>m./f./pl.</i>)	da/di /dōl il-kitāb <i>da</i>	hād(a)/hādi, hay /hadōl + il-: <i>hal-</i> (<i>m./f./pl.</i>) hāda l-bēt = il-bēt hāda = hal-bēt	hāḍa/hāḍi, hāy /(ha)ḍōl(a) + il-: <i>hal-</i> (<i>m./f./pl.</i>) hāḍa l-bēt=hal-bēt	hāḍa/hāḍi /haḍēl(a)
that (<i>m./f./pl. m./f.</i>)	dukha/dikha /dukham	hadāk/hadīk /hadōk, hadōlīk	ḍāk(a)/ḍīč(i) /ḍōk, ḍōlāk	(ha)ḍak/(ha)ḍič /(ha)ḍōlāk/(ha)ḍēlāk, (ha) ḍilāk
here	hina	hōn	hnā(na)	h(i)ni <i>cf.</i> minni < min + hni
there	hināk	hnīk	hnāk	(‘i)hnāk
so, thus	kida	hek	hīč(i)	čīḍi
10) 疑問詞: what what is ...?	‘ē	šū, <i>prep.</i> + ‘ēš	š- + <i>verb, prep.</i> + ēš šin-ū	šu, wēš, š-+ <i>verb, etc.</i> šu sm-ak/š-asim-ha 名は? <i>Bahraini:</i> šin-(h)u/šin-hi
which (book) who	‘an-hu/-hi/-hum, ‘ayy mīn	‘an-u/-i/-on, ‘ayy mīn	yā, ‘ay minū <i>noun/prep.</i> + man	‘ay man, min
when where	‘imta fēn	‘ēmta fēn, wēn	š-wakit wēn	mata, mīta wēn
from where	m(i)nēn	mnēn	mnēn	mnēn, min wēn
why	lē	lēš	lēš, ‘al-ēš, ‘ala-wēš	lēš, š-da‘wa
how	‘izzay ‘izzayy ‘how is ...’	kīf, šlōn	šlōn <i>cf.</i> čēf ‘because’	čēf, kēf
how much for how much how many	kam, ‘add-‘ē bi-kam kam + <i>sg. noun</i>	‘add-ēš b-‘add-ēš kamm + <i>sg. noun</i>	š-gadd b-ēš čam + <i>sg. noun</i>	čam, kam čam, kam čam/kam + <i>sg. noun</i>
11) 名詞の不定 ある男/女の子	wāḥid walad/ waḥd-a bint	wāḥed walad/ wāḥd-e bint	<i>fad</i> walad/i-bnayya wāḥid walad/ wiḥd-a bnayya	ø walad/ ø bnayya
<i>cf.</i> 1 人の男/女の子 فرد <i>fard</i> ‘single’	walad wāḥid/ bint waḥd-a	walad wāḥed/ bint wāḥd-e <i>cf.</i> (任意) <i>šī</i> bint ある女の子	walad wāḥid/ bnayya wiḥd-a <i>cf.</i> bint ~ bitt 娘	walad wāḥid/ bnayya waḥd-a

数量の特定語彙 zewġ ‘2’ + <i>pl. noun</i>: zewġ-t i-rgiġel, zewġ nisa 2 人の男/女	数量の特定語彙 žuž (d-le<冠詞>) + <i>pl. noun</i>: žuž ktub, žuž d-le-ktub 2 冊の本	広範囲 zūz ‘2’+ <i>pl. noun</i> で代用 可: zūz byūt 2 部屋 zūz + (\$) : zūz ĩd-ĩn, etc.	数量の特定語彙 (<i>sg./quasi dual</i>) ĩda/ĩd-ēn, kurā/kur-ēn	広範囲:外来語は不可 itnēn kīlu 2 キロ; šahar-ēn 2 か月(itnēn šuhūr/ <i>pl.</i> と言えない) ĩd-ēn, kir‘-ēn (< kurā‘), ‘ēn-ēn, iḏn-ēn(<i>sg. aḏān</i>) 耳 <i>cf.</i> bē riġl-ēn ‘徒歩で’に残る
id-ejn, ghajn-ejn, widn-ejn (< widna), dirgh-ajn 腕 saq-ajn(< sieq) 足, riġl-ejn(< riġel) 脚 <i>cf.</i> 爪/指/頬/眉/鼻/肘/肩/太腿/翼なども	yedd-<i>ĩn</i>, reżl-in, ‘eyn-in, wedn-in wald-in	(<i>\$</i>) ĩd/yidd-ĩn, sāq-ĩn/riżl-ĩn 足, ‘ayn-ĩn, wuġn-ĩn wāld-ĩn 両親	ĩda/ĩd-ēn, kurā/kur-ēn	ĩdēn*, kir‘ēn*, iḏnēn* (rāġl-ēn) abuy-ēn, walad-ēn, bitt-ēn, aḥuy-ēn, uḥt-ēn mudarris-ēn 教師 2 名
saght-ejn 時, jum-ejn 日, ġimaght-ejn جمعة 週, sent-ejn 年, badt-ejn 卵, ġbint-ejn チーズ <i>sg.</i> bajda بيضة, ġobna جبنة	qesm-<i>ayn</i> 5 分の 2 倍, sa‘t-ayn 時, yum-ayn 日, ‘am-ayn 年 < ‘ām عام	制約ある語彙も: bīt-ĩn 2 部屋, warqt-ĩn 紙, qahūt-ĩn 喫茶店, yūm-ĩn 日, dqīqt-ĩn دقيقة 分, dīnār-ĩn دينار ディーナール	yōm/yom-ēn, uzbū /uzbu-ēn 週, sēna/sena-t-ēn, nāfar/nafar-ēn 人 (り, 1/2 人) نفر ----- [複数*; 声調変化] 1) -āt: gumās/gumasāt 衣服 2) -ĩn: tabān/tabānĩn 疲れた 3) 不規則: rājil/rujāl 男, mára/nusuwān 女, wéled/aulād 男の子, biniya/banāt 女の子; kebīr/kubā 大きい 4) 合成: nas-wozīr/terebéza 大臣達/卓 (<i>pl.</i>) * 性区別なく、上記は単に複数形式の分類	sanat-ēn, mukayyif-ēn エアコン مكيف ‘ēn-ē-hu/-ha/-k/-ya, id-ē-hum/-hin/-kum/-na iḏn-ē-k/-ya, kir‘-ē-hu id-ēn-a 彼女の両手, ‘ēn-ēn-i 私の両目 kitāb-ēn kubār 大きい本 2 冊, ‘ēn-ēn-i bi-yōġa‘-ū-ni 両目が私を痛める
ghajn-ej-h/-k/-ja, riġl-ej-ya	reżl-i-h/-k/-ha/-ya, yedd-i-ya, ‘eyn-i-ya, wedn-i-ya, wald-i-ya	‘ayn-ĩ-h/k/ha, ‘ayn-ay-ya ĩd-ĩ-k, ĩd-ay-ya wāld-ĩ-k, wāld-ay-ya		
ghand-u dirgh-ajn shah 彼には健全な両腕がある <i>sg.</i> shih صحيح, driegħ ذراع	šehr-ayn mezyan-in 良き 2 か月; mnin ka-tebqa sa‘t-ayn l-le-fzer 夜明けまで 2 時間が残る時 (動詞は <i>f. sg.</i>)	kurrāst-ĩn ždud 新しいノート 2 冊, il-blāšt-ĩn hađūma ħāls-ĩn これら 2 席は支払い済み(前の-ĩn=双数, 後の-ĩn=述語で複数)		

12) 名詞の特殊複数 [-ēn の接尾] [①対の身体部位] yad يَد 手, riġl رِجْل 足, 'ayn عَيْن 目, 'uḍn أُذُن 耳, kurā كُرَاع (家畜等の)足, sāq ساق 脛、腿、脚 疑似双数 <i>pseudo-dual</i> (*本来の複数を失う) [②血縁語彙] raġul رَجُل 夫/男, 'imra'a (ragl-ēn, marat-ēn), walad-ēn, bint-ēn, 'aḥḥ-ēn, 'uḥt-ēn wālid وَاِلِد 父親, walad وَلَد 男の子, bint بِنْت 女の子, 'aḥ أَخ 兄弟, 'uḥt أُخْت 姉妹 [③その他の人] [④物] sana سَنَة 年, 'usbū 週 أُسْبُوع [所有表現] ・複数で代用 ・所有の分析表示 ・代名詞の接尾 -n の脱落 -n を保持 [文法一致] 特殊複数なので、複数扱い; 人以外の場合で <i>f. sg.</i> を可とする方も	人の場合は制約 'īd-ēn, riġl-ēn, 'ēn-ēn, widn-ēn 'īdēn, riġlēn (ragl-ēn, marat-ēn), walad-ēn, bint-ēn, 'aḥḥ-ēn, 'uḥt-ēn ③-ēn でなく 'itnēn*: 'itnēn mu'allim-īn 教師 2 名 ④は自由に形成: kitāb-ēn ①riġl-ē-h, 'īd-ē-k, 'ēn-ē-hum, riġl-ay-ya ②なし* ④kitāb-ēn-u 彼の 2 冊の本, šāgarat-ēn-hum 彼らの木 2 本 il-walad-ēn iṣ-ṣaṭr-īn fihm-ū-ni bi-sur'a 賢い 2 人の息子は私をすぐ理解した * 限定では 'itnēn は後置: <i>il-mu'allim-īn (i)l-itnēn</i> このため② (と通常は④も) に対応する表現: wlād-i (i)l-itnēn 私の 2 人の息子, kutub-u (i)l-itnēn 彼の 2 冊の本	広範囲('2'の必要なければ複数); ①に<1>と<2> ktāb-ēn 本, mhands-ēn 技師, sayyār-t-ēn 車 <1>'īd-tēn(>it-tēn), 'īzr/riḥl-tēn, 'ēn-tēn, 'īdn-tēn <2>'īd-ēn, 'īzr/riḥl-ēn*, 'ēn-ēn, 'adan-ēn [一般] 付けない: kutb-i t(< il)-tnēn 僕の本 <2>'īzr-ē-ø, 'īd-ē-k, 'ēn-ē-ki, 'īd-ay-ey-yi <1>'ēn-tēn-i 私の両目 <2>'īd-ēn-o 彼の両手	広範囲; ①に<1>と<2> (一般には) <i>pl. noun</i> + '2': kutub i-tnēn 本, banāt i-tnēn/tintēn 娘 <1>'īd-tēn, riḥil-tēn, 'ēn-tēn, 'īḍin-tēn, 'iṣ-bi'-t-ēn 指 <2>'īd-ēn, riġl-ēn, 'ēn-ēn, 'īḍin-ēn 'īdēn*, riġlēn* 'abaw-ēn 両親, 'ibn-ēn, walad-ēn, bint-ēn, 'aḥḥ-ēn, 'uḥt-ēn ③は自由に形成 ④は自由に形成: sayyāra > sayyār-t-ēn gahwa > gahū-t-ēn [一般] li-ktāb-ēn māl-i/t-i /-āt-i 私の本 2 冊 ①④'īd-ē-k/-ya; yōm-ē-k/ya ② --- ④'īd-tēn-ak/-i; yōm-ēn-ak/-i	広範囲:外来語も可 'utēl-ēn/rādw-ēn ホテル/ラジオ(<rādū) 'īd-ēn, riḥl(< riḥil)-ēn, 'ēn?, ḍin(< 'īḍin)-ēn 'īdēn*, riḥlēn, ḍinēn* 'īd-ē-ø 彼の両手 mudīr-ēn zēn-īn 良いボス 2 名, ḥurmat-ēn mḥabl-īn 狂った婦人 2 名, l-bāb-ēn n-ṣakk-aw 戸が 2 つ閉じた
--	---	--	--	--

<i>ta'</i> il-kelma ta-s-sultan [< ta' l-sultan] ⇔ kelmet is-sultan 王の言葉, kelmit-na = il-kelma tagh (= ta') -na 私達の言葉	1) <i>d-</i> [<i>de-</i>] 2) <i>dyal</i> [稀 <i>mta'</i>] l-weld de-/dyal t-tažer 商人の息子, ḍ-ḍar dyal-u/ha 彼/女の家 [代・接は 2)]	<i>mtā'</i> il-bint i-mtā' eṣ-ṣultān スルタンの娘; [次は義務的] il-ktub [<i>pl.</i> CCVC] i-mtā'-i 'my books', il-'āmīn i-mtā'-na 我々の2年(du.)	(<i>bi</i>) <i>ta</i> bēt ta-i/to-tō 私/彼の家 [所有代名詞 (↑ 2)] nās ta béled dé この里の人たち	<i>ḥagg/-at</i> ; <i>bitā' /bitā' -it/bitō'</i> bēt-ī=al-bēt ḥagg-ī/bitā'-ī; al-awrāg ḥagg-at al-mašrū' 計画の書類, al-ḥaddām-īn bitō'-um 彼らの召使達
kíteb/kitb-et ktib-t/-- ktib-t kítb-u ktib-tu ktib-na	kteb/kétb-et ktéb-ti/--* ktéb-t kétb-u ktéb-tiw ktéb-na	ktib/kitb-et ktib-t/-- ktib-t kítb-u ktib-tu ktib-na	屈折なし úwo ø kátibu 彼は書いた [命令] ø kátibu 書け! ø dákalu 入れ! ø jére 走れ! * 動詞をそのまま使用; <i>pl.</i> には -(ta)kum を接尾: ø jére-(ta)kum 走れ! [状態動詞] 常に現在の状態: dêr/áju 欲する, ágder できる [<i>kán</i> + ø/ <i>gi/bí</i>] úwo kán ø/ <i>gi/bí</i> rúwa 彼は行ってしまっていた/行きつつあった/行こうとしていた <i>cf.</i> 「16) 時相表示詞」 [<i>bi</i> + <i>kún</i>] 述語に動詞がない場合の未来表示: úwo bi kún giyáfa 彼女は綺麗となろう	kátáb/kátáb-at katáb-ta/-ti katáb-ta kátáb-u/<-an*> katáb-tu/</-tan*> katáb-na * 動詞[X]の代/接規則: -V: X- <i>n</i> -u/-ak -C: X- <i>na</i> -hum/-hin/-na ḍarab-tan- <i>n</i> -u ...は彼を ḍarab-an- <i>na</i> -hum 彼女達は彼らを殴った yiğīb-an- <i>na</i> -hun 彼女達は彼らを連れて来る yá/tá-ktib tá-ktib/tá-ktib-i 'á-ktib yá-ktib-u /<-an*> tá-ktib-u /<-an*> ná-ktib 注意点: 1) taktíbi ~ takítbi; tamrugu ~ tamurgu 2) R ₁ =ḥ, h, h ya-ḥafir 掘る 3) 代/接規則*

13) 所有の分析表示 [属格構造] cf. 不可分の身体部位、 血縁者、名前等はイダー ファ	<i>bitā' / bitā'-it / bitū'</i> il-bēt bitā'-i ⇔ bēt-ī 私の 家; it-talamiz bitū'-i 私 の生徒達,	<i>taba' ; šēt</i> [Jerusalem] il-farše taba'-i 私のベッ ド; hāda muš šēt-o これ は彼のではない	<i>māl / māl-et / māl-āt</i> l-bēt māl-ak 君の家, s-sayyāra māl-t-a 彼の車, l-kutub mālāt-hin 彼女 達の本	<i>hagg; māl</i> (無変化) li-ktāb hagg / māl-a 彼の 本 (māl は器具, 部品, 外 来語等); [Kuwaiti / Bahraini: s-sā'a hagg-at (māl-t)-i 時計
14) 動詞 [完了] sg. 3 m./f. sg. 2 m./f. sg. 1 pl. 3 m./f. pl. 2 m./f. pl. 1	kātab / kātab-it katāb-t/-ti katāb-t kātab-u katāb-tu katāb-na	kātab / kātab-et katāb-t/-ti katāb-t kātab-u katāb-tu katāb-na	Ⓔ: 未完了語尾-n kītab / kītḡb-at kītāb-it/-ti kītāb-it kītḡb-aw / <-en> kītāb-tu / <-ten> kītāb-na	Ⓔ: 未完了語尾-n kītab / kītḡb-at kītāb-t/-ti kītāb-t kītḡb-aw / -an* kītāb-tu / -tin kītāb-na * 代/接は m. pl. で <間弱動詞> čān (kān), šāf (čāf), rāh: čin(kin)-t, šif(čif)-t, rih-t; -u-は少例
[未完了] sg. 3 m./f. sg. 2 m./f. sg. 1 pl. 3 m./f. pl. 2 m./f. pl. 1	yī / tī-ktīb tī-ktīb / tī-ktīb-i 'ā-ktīb yī-ktīb-u tī-ktīb-u nī-ktīb	yī / tī-ktōb tī-ktōb / tī-k(ə) tb-i 'ə-ktōb yī-k(ə) tb-u tī-k(ə) tb-u nī-ktōb	yī / tī-ktīb tī-ktīb / tī-ktīb-īn 'ā-ktīb yī-ktīb-ūn / <-en> tī-ktīb-ūn / <-en> nī-ktīb	yī / tī-ktīb ^{1), 2)} tī-ktīb / tī-ktīb-īn 'ā-ktīb yī-ktīb-ūn / yī-ktīb-in tī-ktīb-ūn / tī-ktīb-in nī-ktīb 注意点: 1) 一般に yī- ~ ya-: yidris ~ yadris 彼は学ぶ 2) R₁=h, ġ, ḥ, ' , h: y-ġasil 洗う, y-ḥasid 妬 む, y-'arif 知る

なし (名詞化した語彙)	ana kateb 'li-h felfel その 上に胡椒と書いておい た	āna wā'ed bū-ha 私は彼女 の父に約束している hīya lābs-a kīf eṭ-ṭāzel 彼女 は男に似た服装だ(った) āna mākel 飯はもう食った	[動詞形式の来源] ①命令形の習得 動詞の一部: (ス方言) āsalu 尋ねる as'al ārkab 乗る arkab āmusuku 掴む amsik 末弱: wodī 与える addi séli 祈る ṣalli nadī 呼ぶ nādi 重子音: kútu 置く ḥutt límu 寄せる limm 間弱: jību 持ち来る ḡīb dúsu 踏む dūs nūm 寝る nūm sūf 見る šūf 派生 II: kélim 言う kallim sélim greet sallim 派生 III: báriku bless bārik sáidu 助ける sā'id sárik share šārik ②標準形の形成 ákudu 取る uḥud ákulu 食べる ukul dákalu 入る adḥul kátulu 殺す aktul dúrubu 打つ aḍrub wósulu 着く oṣal kásulu 洗う ḡassil ③完了形/分詞他 já 来る ḡā intáha 終る intaha ligó 目にする liga báda 始める bada nesítu 忘れる nisīt nénzil 降りる nanzil we get off kálasu 終る ḥalāṣ 終 fāhim 分かる fāhim wógif 止まる wāḡif	ana māsk-a galam 鉛筆 を掴んでいる(f.) intu ḡāy-īn min wēn ど こから来たのか
* 動詞は下の場合のみ で、少ない				
[空間移動] ghad-u rieqed 彼はまだ 眠っている m-'inie-x hieles bhal- issa 今はちょうど暇で はない cf. raḡel riekeb iz-zie- mel 馬に乗っている男 (↓)	huwa ḥareḡ/daḡel/maši 今出る/入る/行くと ころ	fīn māši どこ行くの ed-dār i-lli aḥna sākn-īn fī-h 私達が住んでいる家		ana māš-a ba'ad šwayya もう少しで行 くつもり intu sākn-īn hina?ここ に住んでいる?
述語動詞としての能 動分詞の用例が少な く、代名詞を目的語と する例を発見できず (↑)	ḡayeb(m.sg.)連れ来て ḡayb-u/-ha <-C> ḡayb-a (f. sg.): ḡayb-a-h/-ha <-V> ḡayb-in (pl.): ḡayb-in-u*/-ha <-C>	qābil(m.sg.)<受け>取り qābl-u/-ik qābil-ha/-ni qābl-a (f. sg.): qābl-īt-t-u/-ik qābl-īt-ha/-ni qābl-īn (pl.): qābl-īn- <-C>		ana mā rāḡi', māši l-ḡa -rṭūm ṭawwāli 戻らず 真っ直ぐハルツーム に行く māsik(m.sg.)掴んでる māsk-u/-ak māsik-a/-ni/-um māsk(X)-a (f. sg.): X-ā-hu/-ha/-ni <-V> māsk(X)-īn (pl.m.): X-in-n-u/-ak X-in-na-ha/-hum/-ni māsk(X)-āt (pl.f.): X-āt-an-n-u X-āt-an-na-ha
	▶ 分詞語尾 -C/-V が 代/接を選択 * 能動分詞の後だけ の特殊形: ḡayb-in-eh <代/接の分類> -V: -h/-k -C: -u/-ek -V/C: -ha/-ni /-hom/-kom/-na	▶ 代/接が分詞 sg. (m./ f.)語幹を選択 <代/接の分類> -V: -h/-k -C: -u/-ik -V/C: -ha/-ni /-hum/-kum/-na		▶ 代/接が分詞 sg.m., pl.語幹を選択 <代/接の分類> -V: -hu/-ha/-k/-ki /-hum/-hin -C: -u/-a/-ak/-ik /-um/-in -V/C: -ni /-kum/-kan/-na

15) 能動分詞 時相を部分的に補う [行為: 完了] 目的語を取る(=書き言葉)	hīya mask-ā-h/-ni 彼女は彼/私を(まだ)掴んでいる dī mafšūl-ā-li b-sitta gnēh これは私に 6 ポンドの値が付けられた(売って貰った)	hīye m'allīm-t-ni 私に教えた cf. m'allīm-t-i 私の女の先生 (‘inti) m'allīm-tī-ni [2 f.での特殊形]	‘āni šāyf-a 彼を見て知っている hīya māḥḍ-a ḥōš riġġāl いい男を掴んだ(夫婦仲がいい)	taw-ha ha-l-hīn dāšša l-bēt 彼女は丁度今家に入った ha-l-hīn ‘āna ġāy-īk fī mawḍū‘ y-ḥuṣṣ-ak お前に絡む話で今来たところ ‘āna yāy ‘a-ṭlub l-gurb minn-ak お近づきを求め来た
[空間移動: 進行/近未来] [状態: 状態]	hūwa ṭālī‘ ba‘d-i šwayya 後少しでやって来るだろう	l-‘ēle wāšl-e ba‘d bukra 家族は明日来よう lessā-ni(=lessa) mitradded まだ迷っている ‘ana mālīy-an mi‘tamed ‘alē-ø 金を彼に頼っている	‘āni rāyih l-il-bēt 家に(今/近く)戻るところ	niḥin msāfirīn ‘ugub yōm-ēn 私達は 2 日後に立つ ‘āna šāyif kalām-ak ma l-a ma‘na 君の言葉は無意味と思う niḥin mit‘asf-īn 申し訳ない
[否定: 現在/近未来]	‘ana miš wākil 私はもう食べない			
[能動分詞+代/接尾形] -C: 子音後の代/接 -V: 母音後の代/接 -V/C: 両者後の代接	fākir (m.sg.) 覚える fakr-u/-ak fakir-ha/-ni/-kum fakr-a (f. sg.): fakr-ā-h/-ha/-k/-ni<-V> fakr-īn (pl.): fakr-īn- <-C> ▶代/接が分詞 sg.m. 語幹を選択 cf. humma mudarris-īn-ak “they’ve been teaching you” [not: teachers] (↑) <代/接の分類> -V: -h/-k/-ki -C: -u/-ak/-ik -V/C: -ha/-ni /-hum/-ku(m)/-na	wāzen (m.sg.) 計り終え wāzn-o/-ak wāzen-a**/-ni/-kon wāzn-e (f. sg.): wāzén-t-o/-ni/-kon*<-C> wāzn-īn (pl.): wāzn-īn- <-C> ▶代/接が分詞 sg.m. 語幹を選択 * 2 sg.f. の主語では特殊形 (完了語尾-ti に類推): wāzén-t-tī-ø/-ha/-ni 'you/f. having weighed him/her/me' ** h なしでも子音語尾 <代/接の分類> -V: -ø/-k/-ki -C: -o/-ak/-ek -V/C: -(h)a**/-ni /(h)on**/-kon/-na	dāfin (m.sg.) 埋め終え dāfn-a/ak/ič dāfin-ha/nī/hum dāfn-a (f.sg.): dāfn-et-* <-C> dāfn-īn (m.pl.): 1) dāfn-ī- <-V> 2) dāfn-īn- <-C> dāfn-āt (f.pl.): dāfn-āt- <-C> ▶代/接が分詞 sg.m. 語幹を選択 * 1) dāfin-t-a/ak/ič と 2) -t-の重子音化: dāfn-et-a > dāfn-et-ta 'having buried him' <代/接の分類> -V: -ø/-k/-č -C: -a/-ak/-ič -V/C: -ha/-ni/-hum/-hin /-kum/-čen/-na	‘ārif (m.sg.) 知ってる ‘ārf-a ~ ‘ārf-īnn-a 彼を ‘ārif-fa (< ha) ~ ‘ārf-īn-ha 彼女を ‘ārf-a (f. sg.): ‘ārif-ī- ~ ‘ārif-īnn-a 彼を ‘ārfāt-ta (< ha) ~ ‘ārif-īn-ha 彼女を ‘ārf-īn (pl.): ‘ārf-īn- <-C> ▶代/接が分詞 sg.m./f. 語幹を選択 <代/接の分類> -V: -ø/-k/-č -C: -a/-ak/-ič -V/C: -ha/-ni/-hum/-hin /-ku(m)/-kin/-na

ø-jikteb 彼は書く	ø-yikteb 彼は書く	ø-yiktib 彼は書く	ø kátibu 書く <i>kedé úwo ø kátibu</i> 彼が書く(非事実)	ø-yaktib 彼は書く
ø-jikteb 書く	<i>ka-yikteb</i> 書く/いている (状態/空間移動の自動詞:単純事実)	ø-yiktib 書く/いている	<i>úwo gí kátibu</i> 彼は書く/いている	<i>bi-yadrus ~ b-idrus</i> 彼は書く
<i>qed jaqra</i> 彼は読んでいる	<i>ka-imši le-s-sekwila</i> 彼は学校に通っている (空間移動の他動詞) 両義的: <i>ka-irkab</i> 乗っている/いつも乗る		<i>ma-lú ita gí kóre?</i> 君はなぜ泣いてる? <i>leánu ákil ... gí rúwa kálasu</i> 食べ物は無くなろうとしているから	<i>hu gā'id yadrus al-'arabi</i> 彼は今アラビア語を勉強している (<i>gā'd-a/-īn</i>)
<i>ser nikteb</i> 私は書こう			<i>ána dér límu ma úwo</i> 僕は彼と会うつもり	<i>hi mās-a ti-staḥamm</i> 彼女は風呂に入るつもり (<i>mās-i/-a/-īn</i>) <i>hu dāyir yi-ṣallih 'ara-bīyt-ak</i> 彼は君の車を直そうとしている (<i>dāyir-a/-īn</i>)
<i>meta sa jigi</i> 彼はいつ来るか	<i>gadi/maši</i> tikteb 君は書くだろう	<i>bāš/biš nimši l-tūnis ġudwa</i> 私は明日チュニスに行こう	<i>ita bi nūm fī bêt ta jéna ta-i</i> 君は私の子供の家で寝ましょう <i>ina bi rúwa ákulu</i> 私達は食べるでしょう <i>cf. nās al gí rúwa ákulu dé</i> (直ぐに)食べようとしている人達	<i>ḥa-(a)ktib-u hassa'</i> 今からそれを書きます [地方では <i>bi-</i>]
① <i>ḥa jikteb</i> 'Let him write!'	① <i>ḥelli-ni ne-mši m'a-h</i> 'Let me go with him!' ② <i>yalla+ø-(法の形式)</i> <i>yalla ø-ne-mšiw le-d-dar</i> 'Let us go home!'	① <i>ḥallī-ni nu-ḥruž</i> 'Let me go out!' <i>ḥan(<ḥal) ni-mšī-u</i> 'Let us go!'	① <i>keli:</i> <úwo> <i>keli ána ákudu ráha</i> <彼は>私に休ませて<くれた>下さい ② <i>kedé</i> (法の形式) <i>kedé ina rúwa</i> 'Let's go!' (> <i>kedé-na</i>) <i>kedé ita mā rúwa</i> 'Let you not go!' (> <i>kedé-ta ~ keéta</i>) <i>ará-ø/ara-kúm (sg./pl.)</i> ← 'Let's go!' (間投詞)	① <i>ḥalli</i> ② <i>al + impf.:</i> <i>al ya-dḥul</i> 'Let him enter!' <i>an(< al) na-mši s-sūg</i> 'Let us go to the market!' ③ <i>arah-ka/ki/kum + impf. 1 pl.:</i> <i>arah-ka na-mrug</i> 'Let us go out!'

16) 時相表示詞*				
[法] <i>lāzim</i> , <i>mumkin</i> 等の後で非事実内容: <i>لَنْ يَكْتُبَ</i>	<i>ø-yiktib</i> 彼は書く	<i>ø-yiktob</i> 彼は書く	<i>ø-yi-ktib</i> 彼は書く	<i>ø-yi-ktib</i> 彼は書く
[一般事実/現在] <i>يَكْتُبُ</i>	<i>bi-yiktib</i> 書く/書いている	<i>b-yiktob</i> 書く	<i>š-semis ø-ti-ṭlaʿ i-mn iš-šarq</i> 陽は東に昇る	<i>ø-yrūh māsi kill yōm</i> 彼は毎日歩いて行く
[進行]	<i>ʿammāl-īn yištaḡalu</i> 彼らは今働いている <i>hūwa ʿāʿid bi-yiktib gawāb</i> 手紙をずっと書いている (ʿaʿd-a/-īn)	<i>ʿam (b-)yidros</i> 彼は勉強している (ʿammāl > ʿamma, ʿan, ʿa, man)	<i>baʿad-ni bil-gahwa da-ʿākul dōndirma</i> 私はまだ喫茶店でアイスクリームを食べている <i>da-yibn-ūn ġisr</i> 彼らは橋を建設中だ	<i>ø/b-yidris ha-l-hīn</i> 彼は今勉強している [b-による意味変化もなく頻度は低い] <i>b-nḥaššil min warā-ø flūs</i> 我々は彼の後ろから金入手する
[近未来]				
[未来] <i>سَوْفَ يَكْتُبُ</i>	<i>ḥa-(a)ktib-lak</i> 君に手紙を書こう	<i>raḥ-ø-yidros</i> 勉強するだろう (<i>rāyeh</i> > <i>raḥ(a)</i> , <i>ḥa-</i> ; <i>laḥa</i> , <i>laḥ</i>)	<i>raḥ[/ḥa]-yōṣal</i> 着くだろう (<i>rāyih</i> > <i>rāyḥ-a/-īn</i> , <i>laḥ</i>)	<i>ø-yidris bācīr?</i> 明日は勉強するかな <i>ʿāna rāyih a-sʿal-ha</i> 彼女に尋ねよう
[Let...] <i>يَكُنْ</i> (ل) <i>خَلِّي</i> ‘させておく’の命令形 <i>ḥalli</i>	① <i>ḥallī-ni ʿa-dḥul</i> ‘Let me enter!’ ② <i>ø-</i> (法の形式): <i>yalla (bī-na) ø-n-dardiš</i> ‘Let us chat!’	① <i>ḥallī-na n-āḥod il-bāš</i> ‘Let us take the bus!’ ② (<i>la</i>) <i>ø-</i> (法の形式): (<i>la</i>) <i>ø-ni-rzaʿ la masʿalt il-bēt</i> 家の問題に戻ろう	① <i>ḥallī-ni ʿa-ktib</i> ‘Let me write!’ <i>ḥallī (> ḥall) n-rūh</i> ‘Let us go!’	① <i>ḥall-n-na</i> <i>ḥalln(<ḥallī-ni) a-šūf-a</i> ‘Let me see it’ <i>ḥallna(<ḥallī-na) n-šūf-a</i> ‘Let us see it’ ② <i>ḥall-ha t-šūf-hum</i> ‘Let her see them’
* 文の時を示すため 主動詞に接頭: ・一般に副詞節になし ・方言ごとに使用条件が異なる ・関係節内では、ほぼ自由に使用可能				
[副詞節の法形式]				

dan rigal ghal <i>meta</i> <i>ø</i> s(< t)-sir qassis これは 君が司祭になる時の ための贈り物だ * この例を別として かなり自由に時相表 示詞を使用	nebbeh-t-u <i>qbel-ma</i> <i>ø</i> i-dir-ha 彼がそれをする 前に僕は彼に注意した <i>hetta</i> <i>ø</i> i-duz remdan 'ad n-safr̥-u ラマダンが 過ぎると私達は出発し ます	na-'raf-ha ml̥iḥ, fehmit-ni <i>qbal-ma</i> <i>ø</i> ni-bda l-klām 私 は彼女をよく知ってい て、私が話を始める前に 彼女は私を理解した	<i>cf.</i> morfoin mínma <i>gí</i> rúwa ze dé, úwo árufu ... ハイエナはこのよ うに行きつつあって からも、彼は...と分か っていた	'ašān kida b(i)-(y)ikūn 'ind-a-na 'īd <i>lamman</i> šahar aṣ-šōm <i>ø</i> yi-nta- hi だから断食の月が 終わると祭りがある
il-Malti <i>m-hu-x tqil</i> マル タ語は難しくない	hadik l-bint <i>maši</i> fr̥hana あの少女は嬉 しくない = ... <i>ma-fr̥hana-š(ay)</i> ana <i>maši</i> mgarbi 私は モロッコ人でない (名詞)	ma-hu-ši mr̥iḥ彼は病気 でない (> mūši > muš)	tanin <i>mā</i> yābis 他のは 乾いてない Islām kán <i>mā</i> ketir イス ラムは多くなかった	di <i>mā</i> mantigat-na 我々 の地域ではない <i>niḥna mā</i> 'ārf-īn aṭ-ṭa- rīg 道を知らない <i>kun-tu mā</i> mōḡūd-īn 君 達はいなかった
<i>m(<ma)-'ghand-u-x</i> <i>ghaqal</i> 彼にはセンスが ない	<i>ma</i> 'end-i- <i>ø</i> flus 金なし <i>cf.</i> <i>ma</i> 'end-i- <i>š</i> le-flus そ の金がない	<i>ma</i> 'and-ek- <i>š</i> ktāb 君に は本がない <i>ma</i> b-iyā- <i>š</i> 私には何もな い(問題ない)	āna <i>mā</i> indu gurūs 私は 金を持っていない	<i>mā</i> 'ind-i 'arabīya 車は ない <i>inta mā</i> mumkin tašrab l-laban 君は牛乳を飲 めない
<i>ma</i> kiel-x 彼は食べな かった	<i>ma</i> -kla- <i>š</i> l-hobz パンを食 べなかった <i>cf.</i> <i>ma</i> kla- <i>ø</i> hobz パン という物は食べなかつ た	<i>ma</i> fhim- <i>š</i> 彼は理解し なかった	āna <i>mā</i> <i>ø</i> -jību <i>ma</i> āna (<i>معي</i>) sabūn 僕は石鹸を 持って来なかった	<i>mā</i> faṭar-ta lissa'まだ朝 食を食べてなかった <i>mā</i> addē-t-u lē-ha 私は 彼女にそれを与えな...
<i>ma</i> ti-kol-x 君は食べ ない	<i>ma</i> -ka-yaklu- <i>ši</i> dak l- lhem 彼らはあの肉を食 べない	<i>ma</i> nušrub- <i>š</i> šrāb 私はワ インを飲まない <i>muš</i> biš nšūf-u 私は彼に 会わないだろう	āna <i>mā</i> <i>bi</i> káfu 僕は怖 くないだろう	hi <i>mā</i> ga'da ta'mil gahwa 彼女は今コーヒーを作 っていない <i>mā</i> bi-na'rif aṭ-ṭarīg 私達

接続詞の種類は描写される時・方言により異なる	<i>lamma</i> (ba'd-i ma'abl-i ma/badal ma) <i>Ø</i> ni-t'ašša, ha-n-rūḥ is-sinima 夕食を食べる時に(後で/前に/代わりに)映画に行きましょう	<i>lēš mā b-y-āḥod-hom ma' -o lamman Ø yi-rza'?</i> 彼が戻る時になぜ彼らを連れて行かないの? 'abl ma <i>Ø</i> yūṣal 'al balad la'a rā'i 町に着く前に彼は羊飼いに会った	<i>lamma(-n/lumman) Ø yi-ḡī ṣ-ṣēf raḥ asāfir i-l-lub-nān</i> 夏が来ると僕はレバノンに行くつもり	<i>lēn Ø t-ōṣal y-āḥuḍ-ūn -ak w y-rawwūn-ak l-balad</i> 君が着くと彼らは君を連れて街を見せよう(<i>lamma</i> はあまり聞かない)
17) 否定 [等式文述語]	<i>iṭ-ṭālib muš [miš] ṭawīl</i> その学生は背が低い	'intū <i>mū</i> wlād 君たちは子供ではない	hal-māy <i>mū</i> bārid この水は冷たくない	il-hawa <i>mūb</i> ḥārr 天気は暑くない 'āna <i>mū</i> (#CC-) mḥabbal 狂ってない
[# 述語が分詞]	<i>humma muš mawgūd-īn</i> 彼らはいない	'aḥ-ū <i>mū</i> zāye 彼の兄は来ない	'āni <i>ma</i> šāyif-ha まだ彼女を見てない 'āni <i>ma</i> mašḡūl 私は忙しくない[形容詞扱いで <i>mū</i> も可]	<i>ma</i> 'arf [<i><ārif</i>] (私は)知らぬ miṭīl ha-l-mi'ris <i>mub</i> lāgy-īn (我々は)こんな花婿を見出さない
[# 主語が代名詞]	<i>ma-(i)ntī-š gayy-a m'ā-na?</i> あなたは私達と来ないのか = 'inti <i>muš</i> gayy-a...?	<i>mā</i> ḥuwe l-mas'ūl 彼は責任者でない <i>māl-i</i> rāyeḥ = 'ana <i>mū</i> .. 私には行かない <i>māl-na</i> šwām 私たちはダマスの人でない <i>wiṣṣ-ek māl-o mnīḥ</i> 君の顔色は良くない <i>cf. ma l-o tāriḥ m'ayyan</i> それに特定の日はない		<i>hum mūb</i> fi-l-madrasa 彼らは学校にいない
[疑似動詞]	<i>ma</i> 'and-ī-š flūs 金がない	<i>mā</i> 'and-o dars i-l-yōm 今日彼は授業がない <i>mā</i> b-o šī 彼には何もない(問題ない)	<i>ma</i> 'ind-ī' 'id-na flūs 私/我々は金がない <i>ma</i> bī-ha tiḥēti 彼女は話せない	<i>ma</i> 'ind-i flūs 金がない <i>cf. mūb</i> 'ind-a l-'āyla 家族は一緒にない[限定主語の等式文] <i>ma</i> l-i raḡba fi z-zawāḡ 結婚希望はない <i>mūb</i> lāzim 'arūḥ 行く必要はない
[過去]	<i>ma</i> katabū-š 彼らは書かなかった	<i>ma</i> šāf-o 彼を見なかった	<i>ma</i> šift-a 彼を見なかった	<i>ma</i> baḡēt 'arūḥ 行きたくなかった
[現在/時相表示詞]	<i>ma</i> b(i)-yi'raf-š 彼は知らない <i>miš</i> ḥ(a)-a'dar 'ašūf-ak bukra 明日は君に会えない	<i>ma</i> b-aṭla' 'a-l-ḥāra b-il-bizāma パジャマ姿で通りに出ない	<i>ma</i> ni'ruf iḡ-ḡawāb 私達は答えを知らない <i>ma-da-(a)dri wēn rāḥ</i> 彼	<i>ma</i> yidris hal-ḥīn 彼は今勉強していない

	ma-gadi-š nišreb 私は飲むまい			は道を知らない <i>māni</i> <i>ø-a-mrug</i> a-l'ab 僕は遊びに出ない
(<i>la</i>) ti-kol-x 食べるな	ma-tikteb-š hna ここで書くな <i>cf. la</i> tkedbu-š 君達、嘘をつくな(説教)	ma-tikteb-š 書くな ma-dzūz-ū-š (<tzūz) その中に入るな	<i>mā-ta</i> <i>ø</i> kátibu 書くな! <i>mā-ta</i> (<i>ta</i>) <i>kum</i> zúlumu zôl 君達、人に悪を行うな!(相手が <i>pl.</i>)	<i>mā</i> taftaḥ aš-šubbāk 窓を開けるな
<i>la</i> tie-kol <i>u la</i> ti-ikellem 彼女は食べも話もしない	ma mš-aw i-ḥedm-u <i>la</i> l-e-wlad <i>wa-la</i> l-e-bnat 彼らは働きに行かなかった、男子も女子も	<i>la</i> tu-rqud <i>u-la</i> ti-ḥdim 寝るのでもなく働くのでもない	ána <i>mā</i> jību ma ána (معي) sabūn welé mandīl dé 僕は石鹸もタオルも持ってこなかった	<i>lā</i> 'ind-u walad <i>wa-lā</i> bitt <i>wa-lā</i> mara 彼には息子も娘も妻もない
<i>cf. la</i> t-rid ti-ḡi, ejja 来たいなら来いよ <来たくない? お出でよ! * Aquilina (1990) はこの <i>la</i> を 'when' と説明; ejja (<i>pl.</i> ejjew) は「来い」の意味の動詞的間投詞、<間投詞 𐤊𐤍𐤕?>	<i>cf. koll-ši</i> kan temma, <i>la</i> l-e-'asatida <i>wa-la</i> t-lamed 誰もそこにいた、先生達だけでなく生徒達だけでもなく (both A & B, つまり肯定!!)	<i>lā-ni</i> b-šahḥt-i <i>lā-ni</i> mriḡ 私は元気で病気でない	<i>mā</i> ze dé 'not like this' (語句の否定) [状態動詞の否定] ána <i>mā</i> <i>ø</i> -áruf 知らない ána <i>mā</i> <i>bi</i> áruf kēf ána <i>bi</i> dúrubu いかにも僕が打ち殺そうか僕は知らない ána <i>mā</i> <i>bi</i> ágder dóuru 歩き回れない <i>cf. ita</i> fāhimu <i>mūs</i> ? 君、分かった、ね?	<i>mā</i> ta-rkab 乗って! < <i>muš</i> について> ① 頻度も低く 'it is not': ḥatt-u fi l-maḥzan <i>muš</i> hayyin それを倉庫に置くのは簡単でない, al-lōn <i>muš</i> kwai-yis 色が良くない ② 語句の否定: <i>muš</i> fi faṣl aš-šita 冬ではなく, bass <i>muš</i> katīr 'ašān b-(y)i-ḥsar 腐るので多くじゃなく ③ <i>muš</i> kida?: 通常は <i>mū</i> (< <i>māhu</i>) kida?
<i>hemm/ma</i> <i>hemm-x</i> ma <i>hemmx</i> aktar これ以上はない	<i>kay-en</i> (-na/-nin)/ <i>ma-kayen-š</i> <i>kay-nin</i> šwiya d-le-ḥwanet mezyan-in f-le-mdina 旧市街には良い店がいくつかある	<i>ṭamma/ma-ṭammā-š</i> <i>ṭamma</i> qlām 'a-l-bīrū 机の上にペンがある <i>famma</i> [女]* <i>famma</i> zūz ṭiyatruwāt 劇場が2つある, <i>ma-fammā-š</i> ḥubz パンがない * 男性も使う	<i>fī/mā-fī</i> (前/後) <i>fī</i> timsā ini ここにはワニがいる <i>mā-fī</i> muskila 問題はない	<i>fī/mā-fī</i> (前/後) <i>fī</i> kitāb kabīr 大きい本がある <i>sukkar mā fī</i> 砂糖はない
<i>li ~ illi</i> <i>ir-raḡel</i> <i>li</i> minn-u	<i>lli</i>	(<i>i</i>) <i>lli</i> <i>i-zī halli</i> (合成指示詞要)	<i>al... (dé)</i> , <i>abu ... (dé)</i> <i>al ita</i> jību (<i>dé</i>) = <i>abu ita</i>	<i>al</i> <i>al-bīr</i> (<i>f.</i>) <i>al</i> aḥad-na

[否定命令/禁止]	い <i>[miš b-aktib, ma ḥ(a)-aktib-š</i> も今は使う]	<i>ma ‘am ta‘mal-u šī</i> 君らは今何もしてない <i>ma laḥ-yiḥṣal ‘a-š-šāgle</i> 仕事は1つも取れないだろう [上2文は <i>mū/māl-</i> も可] <i>lēš māl-o ‘am yiḥki</i> 彼は今なぜ話さないのか	がどこに行ったか知らない <i>ma-raḥ-asawwi šuḡul ṣa‘ub</i> 私は難しい仕事はしないだろう	
[否定の反復]	<i>ma tḥaf-š</i> 心配するな	<i>la tinsa</i> 忘れるな[ダマス] <i>ma trūḥ-u</i> 行くな <i>ma tdaḥḥnū-š</i> 煙草を吸うな [Jerusalem]	<i>la tidfa‘ kullšī</i> 何も払うな	<i>la tiṭbaḥī bāmīya</i> オクラは料理するな
[その他の否定]	<i>la da wa-la dukha</i> これでもあれでもない	<i>la ḥīye ḥilw-e w-la ‘ēlit-a ḡanīy-e</i> 彼女は綺麗でも家が裕福でもない	<i>ma ‘id(<ind)-hum la ‘akil wa-la flūs</i> 食べ物も金もない	<i>la yi-n-ṭibīḥ wa-la yi-n-šīwi</i> 料理されも焼けもしない <i>l-a la mara wala ḥmāra</i> 彼には女も雌ロバもない
[その他の否定]	<i>cf. ma ti-tkallim</i> 話して！ <i>cf. ma katab-ū-š</i> 彼はそれを…; <i>ma katabū-h-š</i> 彼らはそれを…	<i>cf. ma ti-ḥki</i> 話して！	<i>mū šift-a l-yōm?</i> 彼を見たのじゃない？ 見たんだよ！ <i>cf. idrus la tirsib</i> 試験に落ちないように勉強しろ (<学べ、さすれば落ちない)	<i>cf. la t-sawwi ḥēr wala y-ḡī-k šarr</i> 善は行うな、そしたら悪もお前に来ない
18) ある/ない هناك = ثمة	<i>fī/ma-fī-š</i> <i>fī ‘ayy-i ḥāga ‘alašān-u?</i> 彼に何か用がある？	<i>fī/ma-fī-š ~ fī-š ~ ma-fī</i> <i>‘ēš fī ‘a-l-kursi</i> 椅子の上 に何があるか <i>fī-š ‘išī</i> 何もない	<i>aku/maku</i> <i>aku ‘adāwa bēnāt il-‘uḥwa</i> 兄弟間に敵意がある <i>ista‘jil, maku wakīṭ</i> 急げ、時間がない	<i>fī/ma-fī</i> <i>fī ṭamāt fī s-sūḡ</i> スークにトマトがある, <i>ma fī šuḡul il-yōm</i> 今日は仕事がない Kuwaiti: <i>‘aku/maku</i> Qatari: <i>hast (< Pers.) / ma hast ~ ma mīš</i>
19) 関係節	<i>(‘i)lli</i>	<i>hallī~yallī~illi</i>	<i>illī~il-</i>	<i>(i)lli</i>

kellim-t-ek その人について私があなたに話した人 raġel ø ji-dhak hafna よく笑う人 (動詞が未完了の時だけ) ċerta tfajla maltija illi kien-et t-ghammar miegh-u 彼と棲んでいたあるマルタの少女 (過去は関係詞)	waħed s-sīyed ø kan-et mřat-u mriřa tleb men-na n-‘awn-u-h 妻が病だったお方は、我々が彼を助けるよう頼んだ	素 hal- + lli) māħeđ l-‘ā-limīya i-nūb-u アーリミヤ(の身分証)を持つ者が彼の代理をしに来る [dār walla vīlla lli bnaw-ha?彼らが建てたのは家か別荘か (不定先行詞の例でない!)]	jību (dé) 君が持ってきたもの fünduk bitø al fi Hay-Melekiya dé 広場 M にある彼のホテル [名詞修飾の <i>adj.</i>] sabūn al kwēs (dé)良い石鹸, rājil al ajūs 年をとった男, akū ta-i al kebīr dé 僕の兄, fi teriga al mā kwēs 良くないやり方で <i>cf.</i> zōl kebīr/reīs 長老, háy nesia 本当の生活 (歌詞)	minn-a-ha mōya 我々が水を取った井戸 al-bēt aġ ġamb-ak da 君の隣にあるこの家 (語順に注意) al-mēdān aġ ġamb al-bēt 家のそばの広場 awlād suġār ø mā b(i)-(y)imš-u (a)l-mad-rasa 学校に行かない小さな子達
ほぼ義務的 [強意表現] mara liema b-hal-ha woman+which+like+her > 例もみない女 [定性一致は任意] il-ktieb (il-)ġdid ①その新しい本 ②その本は新しい il-lingwa Maltija マルタ語(ニスバは冠詞を取らない) [目的語の表示] kiteb il-ktieb/lil-l-ktieb(一般/強調) 彼は本を書いた kitb-u lil-hu-k(間接目的語) 彼はそれを君の兄に書いた ra ’l(=lil) Ġanni 彼はジョンを見た(冠詞以外で限定)	ほぼ義務的 [疑問文の明示] waš ka-ta-‘rf-ha?彼女を知っている? waš nta šayem?断食している?	ほぼ義務的 [疑問文の明示] qut(< qult)-l-ū-š(i)?君は彼に言った? ‘and-ū-š(i) mřa oħra?彼には別の女がいるのか (文頭の語に接尾)	移動しない íta ġi rúwa wēn?君はどこに行くところ? <i>malú</i> は文頭: malú ita mā rúwa?君はなぜ行かなかった [疑問文の明示] hāl úmon yábis?それらは乾いてる? [主語の後に <i>pron.</i>] aléla Walāk úwo intáha kasīl 今日ワラクは洗濯を終った [固有名詞]; itnīn min sabāb úmon límu 若者の2人が寄せ集まった [長い], sabí tō úwo rúwa 彼の友人は行った <i>cf.</i> nās dēl rúwa 皆は行った [付帯状況] zoujú úwo ligó lísa sukēr まだ若くして結婚した, ligó nās dé wósulu, bās dé tála 人々	移動しない daras-ta l-‘arabī wēn?どこで勉強した gā‘da ta-ħayyiti šinū hassa‘?今は何を縫ってるの māš-īn ta-‘mil-u šinū hināk?そこで何をするつもり? al (<i>relat.</i>) ġalab minū?勝ったのは誰か <i>cf.</i> minū ġalab?誰が勝ったか

[名詞修飾の前置詞句]				
[先行詞が不定]	hūwa rāgil Ø bi-yiz'al bi sur'a 彼はすぐ怒る人だ	fī 'and-i šadī' Ø 'aža ždīd 'al i-blād 新しく国にやってきた友人がある cf. kān fī ktīr nās yilli stagallu l-maw'ef 状況を悪用する多くの人がいた(話の冒頭で時々)	aku mu'allim-īn i-hnāk Ø lāzim a-ħčī wīyā-hum 私 が話す必要のある先生 達があそこにはいる	haḡēl banāt Ø dris-an ihni これらは、ここで勉強した女の子達
20) 固有の統語現象 [疑問詞の文頭移動] [疑問文の明示]	任意 ただし、次例から文頭移動に制約がある: 1) šāf mīn 彼は誰を見た 2) mīn šāf 誰が見た 語順が意味を決定 3) šāf-u mīn 誰が彼を見た 4) = mīn šāf-u 目的語があり語順自由; 3) は「彼らは誰を」、4) は「誰らが見た」とも 5) mīn illi šāf-u 彼が見たのは誰か [1]を文頭移動 [副詞節で主語の位置] rūḥ dilwa'ti 'abl ig-gazzār ma yi-'fil 肉屋が閉まる前に今行け! ('abl-i ma 「～する前に」; ba'd-i ma 「～した後」でも同じ現象)	ほぼ義務的 [疑問文の明示] (任意) žāyī-na ḡyūf il-yōm šī? 今日お客さんが来る? 'am ti-'šod šī inn-i kazzāb? 君は意図してるのか、僕が嘘つきだなんて [アラム語の影響] ・先行代名詞: 目的語 ṭa'až-t-ill-a bāb sayyārīt -(h)a l-warrāni 彼女の車の後部ドアを私は(それを)凹ませた i-šrib-ħa la-l-'ahwe 'he drank [it] coffee' (目的語の <i>l</i> -表示 Pales., Yoda) ・同: 所有表現 daftar-o la-l-'ustaz	ほぼ義務的 [アラム語の影響] ・先行代名詞: 目的語 mā ahibb-a l-hāḡa 'I don't like [it] this.'	任意 man ta-b-īn = tabīn man? 貴女は誰にご用? hāḡa s-sikrū māl šū? このネジ何の? [強意表現] ḡurma š-kubur-ha lady + what + her bigness > 何と大きな女 [動詞連続] (čān) šār yi-bḡā y-ḡāwil y-ḡall yi-šḡāḡil 働き続けるよう試みたいまでになった(ていただろう)

			が着いてそのバスは出た * ligó 会う>目にする>を目の当たりにして [間接疑問文] ána mâ áruf <i>kan</i> úwo bi já!...<i>kan</i> úwo munú 彼が来るだろうか/誰かを知らない(疑問詞でも!) [引用の補文標識 galí] (↑1) úwo kélím <i>galí</i>: zôl dé mâ bi já 彼は言った、「この人は来ないだろう」と。 ① 動詞が fêkir なら「...と思った」 ② galí 単独で始まる文なら「...と言った」	[左のス方言] قَالِي huwa <i>kallam-ni gāl le-y</i>: al-bē ‘āwiz ṭabbāḥ 彼(使用人)は私に話して、私に言った「旦那様は料理人が欲しい」と。 * “<i>gāl le-y</i> 私に言った” は引用文を導く機能とも映る → 引用の補文標識 cf. 現代語 قَالِي
iva/le tajjeb tajjeb hafna mejda qattus issa illum ilma (f.) te ross / hobz karta flus wiçç imnieher fomm, halq;	iyeh/la mezyan cf. zin 綺麗な mezyan bezzaf mida, ṭabla mešša ~ mošša, qeṭṭa daba l-yum ma (m.) atay ruz / ḥobz kaḡit, [werqa]; karṭa トランプ 1 組 flus wžeh, kemmara (つら) nif, mnaḡer fomm	ṭh, ṭwa, in‘am/la bāhī cf. zin 綺麗な bāhī yāsir ṭawla qaṭṭūs <i>tawwa</i> l-yūm mā (m.) tāy rūz / ḥubz kāḡit, [warqa]; karṭa トランプ 1 組 flūs wižh ḡšam fum	ai(wa), ai ke/lā, á’a kwēs cf. šēn ‘ugḡy’ hīlu kālīs/sedīd 美味しい terebéza kedīs, bura háse dé, hása (老年層等で dilwākti) aléla (dé), nahār dé móyo šāi rūs / ês wáraga gurūs wúša anáfa (一部の老年層で nangáratu < nakhart-u?) kásuma	ay(wa)/la’ * zēn (interj.), šēn ‘ugḡy’ kwayyis* kwayyis ḡālīṣ/šadīd/bi-l-ḡēl ṭarabēza kadīsa hassa’, hassi; da-ḡīn cf. di-l-wakti も al-lēla (di), an-nahār da mōya (f.) šāy ruzz/‘ēš (地方: ‘ēš = モロコシ) warag[-a] gurūš wašš naḡara ḡašum, gaddūm 口の先

		‘his notebook, of the teacher’ (Pales., Yoda) ・ 倫理与格 ethical dative bidd-i ‘a-’rā <i>l-i</i> šwayye 少し読みたい(主語と一致)		
21) 固有語彙 はい/いいえ 良い 大変良い حَيَل 力 卓 猫 حَزَّةٌ, جِين, مَسَاعِدَةٌ, وَقْتُت 時 今日 الْيَوْمَ, اللَّيْلَةُ 今夜 水 お茶 米 / パン 紙[1 枚] وَرَقَةٌ [1 枚], قُرْطَاسٌ, كَارْدٌ (cards?) 金 قُرُوش, فُلُوس 顔 وَجْه 鼻 أَنْف, مَنَاجِيرٌ (sg./pl.) 鼻の先 نَخْرَةُ	‘aywa/ lā, la’ kuwayyis* kuwayyis ‘awi/hāliṣ * zēn/šēn (老年層/地方) ṭarabēza (Greek) ‘uṭṭa dilwa’t(i) ‘in-nahar-da نَهَار 日中 mayya (f.) šāy ruzz / ‘ēš wara’[-a] 紙/トランプ 1 組 [1 枚] filūs wišš (wagh) manāḥīr (‘anf) fumm, ḥanak, bu’’	‘ē/lā, la’ mnīḥ[𐤌𐤕]/mlīḥ* mnīḥ ktīr * zēn 良い, šēn-āt 不十分 ṭāwla bisse halla’; hal’ēt [Jerusalem] l-yōm mayy, mwayy(e) (f.) šāy ruzz / ḥubz wara’[-a] 紙[1 枚]; [war’-et] šadde 1 組[1 枚] maṣāri مَصَارِيف 出費 wišš minḥār/manāḥīr	‘ī/lā, la’, la ḥēr! (ḥēr に意味なし) zēn cf. šēn 悪い kulliṣ zēn/zēn kulliṣ mēz (< Per. mīz) bazzūna hassa; taww-a d-daris bide 勉強は今始まったところ (ha)l-yōm mayy (m.) čāy timmen / ḥubuz kāgād,qartās (紙一般); warag [warg-a] 1 組[1 枚] flūs wičč (wuḡih) ḥašim ḥalig	‘ī/la zēn cf. šēn 悪い killiṣ zēn/zēn killiṣ wāyid zēn/zēn wāyid mēz, tēbil gaṭwa (ha)l-ḥīn, (ha)l-ḥazza taww-a yā 彼が今来た ‘il-yōm mayy(a), māy, mōya čāy ‘ēš / ḥubiz girtās[-a], warag; warag (1 組) flūs wēh ḥašim ṭamm, ḥalḡ, būz/稀

bokka (入口の)口			zōl, báhar míya (u) wáhid (u) isirîn ‘100+1+20’ mundukúru アラブ人 < ヌビア語 indu kiroyi 「こっちに來い」	zōl 人/誰か, baḥar 河, marag 出る, šī 何か, al-warda aḥmar <i>māla</i> (= min) d-damm バラ は血より赤い
t-rid t-mur it-teatru? 君は劇場に行きたい? * <i>إِنْ يَكُنْ يُعْجَبُكَ <</i> ‘if it please you’ jekk jo-ghġb-ok* grazzi xejn** kif int? ** xejn < šay’an شَيْءٌ (否定で <i>nothing</i>)	baġ-i/ya nšuf-ha 私 (m./f.) は彼女に会 いたい men feḍl-ek; ‘afa-k barek llaḥu fi-k bla žmil* aš xbaṛ-ek? خَبَر news * bla <i>without</i> , ġamīl جميل 好意などでなく	n-ḥibb n-sāfir māḍā-bī-ya/k n/t-sāfir 私/君は旅をしたい min faḍl-ik šukran; ‘aḥsan-t; baraka llaḥu fīk min ġīr mzīya* šnīya ḥwāl-ik? < ḥāl <i>pl.</i> <i>cf.</i> šnūwa ...? (教科書) * mazīya مَزِيَّة 徳/得/特	dēr úwo dēr ákudu ráha besīt 彼は少し休みを 取りたい --- šúkran ~ súkran áfwan kēf ita? ísim ta-ki <i>munú?</i> sákit ‘ <i>merely</i> ’	‘āwz-ø/-a; dāyir/dāyira ana dāyira a-saġġil ġawāb 手紙を書留に したい <i>cf.</i> dār < *rād min faḍl-ak/ik šukran ‘afw-an; al-‘afu izzēyy-ak/ik?; kēf int-a/-i?; kēf-inn-ak/-ik? ism-ak <i>minū?</i> 君の名 は誰? (<下層言語) sákit ‘ <i>only</i> ’: ġīt sákit 来 ただけ, šāy sákit 単に茶
ra/ja-ra, ara ma ja-ra-x tajjeb 彼はよ く見えない, rajt-u sejjer 私は彼が行くのを見た wera/ju-ri (IV); werra/i-werri (II)	šaf/šef-t/i-šuf werra/i-werri (II) [注意喚起の副詞] + <i>pron.suf.</i> : řa-k t-mut (～したら) ほら、 君は死んじゃうよ 単独: řa huwa řa ほら、彼が来た! řa huwa temma ほら、彼はあそこ!	řa/i-řa[完/未完], řa[命令] šāf/šuf-t/i-šūf warra/yi-warri (II) [注意喚起の副詞] + <i>pron.suf.</i> : řā-ni bnayya ほら私、女の子でしょ! řā-hu tawwa fil-bħar ほら、彼は今頃海の上!	sūf ~ áinu worí (II) [注意喚起の副詞] <i>tarāú</i> kélīb, juwa kozo- rón ほら犬が! 鍋の中 に!	šāf/šuf-ta/ya-šūf warra/yi-warri (II) [注意喚起の副詞] <i>tarā</i> + <i>pron.suf.</i> : tarā-hu dāk ġā ほら、 彼! あいつが来た! tarā-ha l-ḥēřa ほら、壁! tarā-na itkallam-na kwayyis al-lēla ほら、私 達って、今日はずいぶん 話した
			----- [ス方言の挨拶言葉]	[-an] 不定表現

فم, خلق, 喉, بُور, 口先, خَنَك 口蓋, خَشَم 鼻/口, √ QDM 先 [その他] zawl زَوْل 人/人影, baḥr بحر 海, maraqa مَرَقَّ (u) 突進する(矢)	Lat. bucca 頬/口 zawāl 影	tumm (↑) <i>cf.</i> zalame/zulm ~ zilm ~ zlom ~ zlam 人 (sg./pl.) زَلَمَة 人影/姿 <i>Pales.</i> zalame/zlam 人	[多い、良い、他] kutub <i>i-hwāye</i> 多くの 本, 'idd-na 'akil wāgīd 食 べ物が多くある <i>hōš</i> weled/ibnayye よい少年/女 <i>cf.</i> zilma ~ zlima/zilim 人	[多い、良い、他] fī kutub wāyīd (wāgīd) 本が多くある <i>hōš</i> rayyāl [<i>Kuwaiti</i>] よ い男 y(j)izīra 'ōd-a 大きな 島
22) 固有の表現 ～したい 'arāda/yurīdu أَرَادَ 'aḥabba/yuḥibbu أَحَبَّ baḡā/yabḡī بَغَى 欲す どうぞ(お願い; <i>m./f.</i>) ありがとう どういたしまして ご機嫌いかがが ^s (<i>m./f.</i>) [その他] sākit سَاكِت 押し黙って /静かな	'āwīz/'awz-a (<i>m./f.</i>) 'āyīz/'ayz-a (<i>m./f.</i> 特に若い女性) bidd-u y-rawwāḥ 彼は帰 りたい min faḍl-ak/ik šukran; mutašakkir; mirsi 'afw-an; il-'afw; 'izzayy-ak/ik?	bidd-na nrūḥ la-'ind ḥusēn 私達はフセインの家に行き たい <i>cf.</i> بَوَيْتْنَا أَنْ نَذْهَبَ min faḍl-ak/ek; balla šukran; mamnūn مَمْنُون 感謝して 'afwan; baṣīṭa kīf [ḥāl]-ak/ik? š-lōn-ak/ek? [<i>Damascus</i>]	rād/irīd, ḥabb/iḥibb min faḍl-ak/ič; raḡā'-an šukran 'afwan; il-'afu š-lōn-ak/ič?	šu ta-bi ti-šrab? t-rīd tišrab šayy? 何を飲みたい? 何 か飲みたい? <i>cf.</i> baḡa/yibḡa ~ yabi min faḍl-ak/ič maškur-ø/-a (相手の性 に応じて) mamnūn; 'alla wīyā-k čēf inta/i?; čēf ḥāl-ak/ič? <i>Bahraini/Kuwaiti:</i> š-lōn-ak/ič? ntaḡar-t-a yaḥḥa ya 彼が 来るまで彼を待った
23) رَأَى ra'ā 見る <i>he saw/I saw/he (shall)</i> <i>see</i> 見せる(IV) 'arā أَرَى / yu-rī يُرَى [痕跡]	šāf/šuf-t/yi-šūf warra/yi-warri (II) [～かしら] ma-gā-š lē, ya tarā 彼は 来なかった、なぜかし ら	šāf/šif-t/y-šūf warža/y-warži (?) [～かしら] ya tarā wēn-o 彼はどこか しら	šāf/šif-it/y-šūf rāwa/y-rāwi (III) [注意喚起の副詞] 'ōgaf, tara 'armī-k 止ま れ、ほら、撃つぞ! la t-šūf ḥal-filim, tara ma yiswā その映画見ない で! ほら、そんな値打 ないの, tara, šudug ḥāḡa hōš walad そら、本当に これはいい子よ	šāf/šif-t/y-šūf čāf/čif-t/y-čūf [šuf-t, čuf-t は少例] rawwa/y-rawwi (II) [注意喚起の副詞] tara l-yōm 'uṭla ほら、 今日はお休みよ
24) その他 [tanwīn の痕跡]				[-in] 慣用句、諺

l-ghodwa t-tajba, bongornu bonswa ğudwa غُدْوَة 朝 sahha* ṣihha صِحَّة 健康 * お元気で！(他にも 使える：お元気？元 気よ！)	ṣbah l-ḥīr mse l-ḥīr l-lah ihenni-k < henna 平穩に保つ	ṣbah il-ḥīr (nhār-ik zīn) msā l-ḥīr, massī-k (同上) fī l-amān, bi-s-salāma	ṣabāḥ al-ḥēr (ṣabāḥ an-nūr) misa l-ḥēr (misa n-nūr) ma'a s-salāma (allāh yisallim-ak/ik) ----- saba l-kēr (saba n-nūr) misa l-kēr (misa n-nūr) ma salāma [受動態: 声調変更] 能) <i>ākulu</i> : ita <i>ākulu</i> úwo 君はそれを食べた 受) <i>akulú</i> : dé gí <i>akulú</i> これは食べられる	'išt- <i>an</i> bala wad idrīs, aḥēr 'adama ワド・イド リースがいけない暮ら し？いない(死ぬ)方が まし！(aḥēr 独自の語順) warra inn-u ṣēḥ- <i>an</i> zēn 彼は良いシャイフであ ることを示した as-sana di ta-bga sanat - <i>an</i> raḥīya 今年が安楽 な年になるように(رَاحِي 楽な) [受動態: ごく少数] 能) sarag/ya-srig katal/ya-ktul 受) sirig/yi-srag kitil/yi-ktal
ghamel/jaghamel 上と同じ cf. sewwa 直す/正す	dar/idir 'mel/i'mel cf. sawa ならす	'mal/ya'mil 上と同じ	ámulu, (sô, sówi) ámulu, sála	'amal/ya'mil 'amal/ya'mil, sawwa/ yisawwi
— qaghad/joqghod	gles/igles g'ad/ig'ad	--- q'ad/yuq'ud	(géni 留まる, 座る)	(ğalas/ya-ğlis 教養語?) ga'ad/yag'ud
naghas/jonghos 居眠る raqad/jorqod 寝る	n'as/in'as 寝る rged/irged 床に入る	n'es/yin'es まどろむ (nām/inūm 稀) rqad/yurqud 寝る	nūm 寝る, 横になる	ni'is/yan'as 眠くなる nām/yanūm 寝る ragad/yargud 横になる
gham/jghum —	'am/i'um	'ām/yi'ūm	hūmu	'ām/ya'ūm (sabāḥ/yasbāḥ 教養語?)
mexa/imxi 歩く mar/imur 行く مَرْمُر mar id-dar 家に帰る	mša/imši 行く; 歩く (命令: sir) raḥ/iṛuḥ 家に帰る	mašā/yimšī 行く; 歩く rawwah/yirawwah 家に 帰る cf. rāḥ 無くなった	dóuru 歩く rúwa 行く rúwa fī bêt 家に帰る	maša/yamši 行く; 歩く rāḥ/yarūḥ 行ってしまう maša l-bêt 家に帰る
sena (ghamnewwel 去年[廃語] のみ) 現在は is-sena li ghaddiet (= فَاتَتْ cf. نَعْدَى	'am/snīn (sg./pl.) cf. 'am l-uwwel 去年	'ām/'wām, snīn (sg./pl.) cf. 'ām-n āwil 去年	sēna	sana 'ām cf. 'ām- <i>an</i> awwal 去年

عيشة暮らし aḥēr < *ʾaḥyar < ḥayr ‘better’				rayyāl- <i>in</i> zēn 良い男, wēh- <i>in</i> yimīl 綺麗な顔, šayy- <i>in</i> makrūh 嫌な事, kill- <i>in</i> yara n-nās b-‘ēn ṭab‘-a 誰も自分の(生まれ持った)目で人を見る
[挨拶言葉] ()内は返事 お早う	ṣabāḥ il-ḥēr (ṣabāḥ in-nūr)	ṣabāḥ il-ḥēr (ṣabāḥ il-ḥēr-āt)	ṣabāḥ il-ḥēr	ṣabbah-k/‘aḷla b-il-ḥēr, ṣbāḥ l-ḥēr
今晚は	misā’ il-ḥēr (masā’ in-nūr)	masā l-ḥēr(-āt) (masā l-ḥēr-āt)	masā’ il-ḥēr	massā-k/‘aḷla b-il-ḥēr
さようなら	ma‘a s-salāma (‘allāh yisallim-ak/ik)	ḥāṭr-ak/ek (ma‘ is-salāme) ‘aḷla ysallim-ak/ek	fī mān i-llā, ma‘a s-salāma, ‘aḷla wīyā-k/‘c	fī mān i-llā, ma‘ s-salāma < في أمان الله
[受動態の痕跡] سرق 盗む 能) saraq-a/ya-sriq-u 受) suriq-a/yu-sraq-u				
[類義語] する (完了/未完了) 作る	‘amal/yi‘mil 上と同じ cf. ‘amal wi-sawwa 「する」の強意	‘amel/ya‘mel, sāwa/ysāwi 上と同じ	sawwa/ysawwi* 上と同じ * ‘imal 「(悪い事を)する」	‘amal/y‘amil, sawwa /ysawwi (上と同じ)
ḡalasa جَلَسَ 座る qa‘ada قَعَدَ 座る, 留まる	galas/yiglis (教養語) ‘a‘ad/yu‘ud	žalas/yizlos 真直ぐ座る ‘a‘ad/yi‘od (命‘ōd)	— gi‘ad/yug‘ud	yilas/yīlas ga‘ad/yag‘id
na‘asa نَعَسَ 居眠る nāma نَامَ 寝る raqada رَقَدَ 横になる	ni‘is/yin‘as 居眠る nām/yinām 寝る ra‘ad/yur‘ud 横になる	ni‘es/yin‘as 眠くなる nām/yinām 寝る ra‘ad/yir‘od まどろむ	ni‘as/yin‘as 眠くなる nām/ynām 寝る	ni‘is/yin‘as 眠くなる nām/ynām 寝る ragad/yargid 眠る
‘āma عَامَ 泳ぐ sabah سَبَحَ 泳ぐ	‘ām/yi‘ūm 泳ぐ sabah/yisbah (教養語)	‘ām/y‘ūm 浮く sabah/yisbah 泳ぐ	sabah/yisbah 泳ぐ	sabah/yisbah 泳ぐ
mašā مَشَى 歩く dahaba ذَهَبَ 行く rāha رَاغ (夕方に)出かける	miši/yimši 歩く rāh/yirūh 行く rāh il-bēt 家に帰る rawwaḥ/yirawwaḥ 同上	miši/yimši 歩く rāh/yirūh 行く rāh ‘al bēt 家に帰る <i>Pales.</i> rawwaḥ/yirawweḥ	miša/yimši 歩く rāh/yirūh 行く rāh l-il-bēt 家に帰る	miša/yimši 歩く rāh/yrūh, sār/ysīr 行く sār il-bēt 家に帰る rawwaḥ/yirawwih (夕方に仕事から)
sana سَنَة 年 ‘ām عَام 年	sana (主に定型句) cf. ‘ām- in(<*-an) awwil (老年層) = is-sana lli fāt-it 去年	sane ‘ām (過去の)年 cf. ‘am-n awwal 去年, <i>Pales.</i> il-‘ām 去年	sana cf. l-‘ām 去年, ‘awwal ‘ām 一昨年	sana cf. il-‘ām il-māḡi 去年

8. アラビア語主要方言テキスト見本

以下に掲載するのは、本稿で取り上げたアラビア語の主要方言による短いテキストである³⁰⁾。テキストの理解を容易にするために、利用した文献の情報に従いつつ、スペースが許す限り語彙の説明を掲げる。しかし、文法語彙に関しては「7. 主要方言の言語特徴対照表」により対応する方言の形式を通覧してから読むのが得策である。なお、日本語訳は、方言テキストの理解を助けることを第一義とした。

I. エジプト方言³¹⁾

fī yōm min zāt il-'ayyām guḥa (i)t-ḥāni' wayya mrāt-u fa ṭarad-it-u mi(n) l-bēt, fa ḥarag za'lān wa kān ga'ān giddan wi-mfallis.	it-ḥāni' 喧嘩をする, mrāt < mara 妻/女, ṭarad 追い出す, za'lān 怒っている, ga'ān 空腹で, mifallis 文無しで
--	---

とある1日のこと、グハーは自分の妻と喧嘩をし、妻は彼を家から叩き出したので、腹立ちまぎれのまま出たが、とても空腹で文なしでもあった。

fa 'amal šaḥḥāt wi-fiḍil y-liff-i min šāri' li šāri' wi-min ḥāra l-ḥāra w-min bēt li-bēt, yi-šḥat wi-y(i)-'ūl: ḥasana li-llāh. mīn yi-šaḥḥāt-ni 'irš-i walla lu'mit 'ēš 'arudd-i bī-ha gu't-i? min yom-ēn ma kalt-i-š wi-mrāt-i ṭard-ā-ni mi(n) l-bēt.	šaḥḥāt 乞食, fiḍil し続ける, laff 歩き回る, ḥāra 街角, šḥat 物乞いする, ḥasana 施し, šaḥḥāt 施す, 'irš 1キルシュ(1銭), lu'ma 片, gū'a 空腹, kal 食べる, ṭard-ā-ni 分詞 f. + I. sg.
--	--

それで乞食をして、通りから通り、街角から街角、家から家を歩き回り、物乞いをして言い続けた、「神様のために施しを。空き腹を追いやるため1キルシュかパンの1切れを誰か私に施してくださらぬか。妻が家から私を追い出したので、ここ数日私は（何も）食べてない。」

ba'ḍ in-nās istaḡrāb-u w-'āl-u: da rāgil magnūn. wi-ba'ḍ in-nās kan-u b(i)-yi-štim-ū-h wi-ba'ḍ-ū-hum kan-u bi-y(i)-'ūl-ū-l-u: 'al alla(h), 'allāh yi-'tī-k.	magnūn 狂った, šatam ののしる, 'al < عَلَى, yi-'tīk يُعْطِيكَ
---	--

ある人たちは怪訝に思い言った、「これは気の狂った男だ。」またある人たちは彼をののしり、別の人たちは彼に対して言っていた、「神様にお願ひしろ、神様がお前に恵んでくださろう。」

wi bi-š-šudfa šāf wāḥid yahūdī fī s-sikka ma(<ā)sik lu'mit 'ēš bi-y-ākul fī-ha, 'ām 'arrab minn-u w-madd-i 'īd-u w-'al-l-u: 'iddī-ni ḥitta milli b-t-ākul minn-u. fa šaḥaṭ fī-h il-yahūdī w-'al-l-u: 'ana šaḥḥāt zayy-ak, ḥa-ti-mšī wall(a) a-ndah-l-ak wāḥid šawīš yi-waddī-k il-karakōn.	بالصدفة 偶然, sikka 道, fī 現下の行為の対象を示す, 'ām < فَاَمَ 動作の移行を示す補助動詞, 'arrab 近づく, madd 伸ばす, 'idda 与える, ḥitta 一切れ, milli < min illi, šaḥaṭ 叫ぶ, nadah 呼ぶ, šawīš おまわり, wadda 連れて行く, karakōn 交番
--	---

30) テキストの表記方法は、対照表と同じ原則で引用元の表記を変更している。語形分析のため、発語で脱落する音は () で、語末の補助母音は -i で示すが、-i 「私の」との大きな混同はない。

31) Mitchell (1960), pp. 152-154.

偶然のこと、彼はあるユダヤ人が道でパン切れを持って、それを食べている最中であるのを見ると、彼に近づき手を伸ばして彼に言った、「お前が食べているのの一切れを私にくれ。」するとユダヤ人は彼に叫んで、彼に言った、「私も君と同様に乞食、(あっちに) 行くか、さもないとお前におまわりを呼んで、お前を交番に連れて行ってもらうぞ。」

'am sāb-u w-miši, wi hūwa māši šamm-i
rīḥit 'akl, fa baṣṣ-i 'ala ymīn-u wi-šāf maṭ'am
wi-'ala ṭūl daḥal il-maṭ'am wi ṭalab 'akl, wi kal
li-ḥadd-i ma šibi' wi-lamm il-bā'i w-ḥaṭṭ-u f(i)
gēb-u w-'ām. wi-ba'd-i kida rāḥ 'and-i šāḥib
il-maṭ'am wi-sa'al-u: 'iza kān wāḥid ṭard-ā-h
marāt-u mi(n) l-bēt wi gē hina w-kal,
wi-ma-m(a)'ā-h-š-i flūs yi-dfa' taman il-'akl,
ti-'mil fī-h 'ē?

sāb 捨て置く, šamm 嗅ぐ, rīḥa 匂い,
baṣṣ よく見る, 'ala ṭūl すぐに/真っ
直ぐ, li-ḥadd i-ma~する程度にま
で, šibi' 満腹になる, lamm かき集め
る, bā'i 残り, gēb ポケット, dafa' 払
う, taman 代金

そこで(グハーは)彼を残して立ち去り、歩いた。歩いていると、食べ物の匂いを嗅いだので右を見たら飯屋が見えた。真っ直ぐ飯屋に入って食べ物を頼み、満腹になるまで食べると、食べ残しを丸め、それを自分のポケットに入れて立ち上がった。その後、彼は飯屋の主人のところに行き、彼に尋ねた、「妻が家から追い出したある者がいて、ここにやってきて食べ、食べ物の代金を払う金を持っていない」とすると、あなたは彼に対して何をしますか。」

fa 'al-l-u šāḥib il-maṭ'am: 'a-ḍrab-u
w-a-ḥaršim-l-u wišš-u w-a-kassar-l-u dmāg-u.
fa 'al-l-u guḥa: ṭayyib, šāḥil! yalla laḥbaṭ-l-i
wišš-i w-kassar rās-i 'alašān ana mista'gil,
wi-badal ma (a)-nām 'a-r-raṣīf, 'a-nām 'ala
s-s(i)rīr fī l-mustašfa, wi-badal ma (a)-liff-i fī
š-šawāri' w-ašḥat, 'ā-kul fī l-mustašfa maggānan.
wi-miš 'āwiz a-šūf ḥil'it marāt-i tāni marra.

ḍarab 殴る, ḥaršim 血を見させる,
dmāg 脳味噌, šāḥil 急ぐ, laḥbaṭ ぶ
ちかます, 'a < 'al < غلى, raṣīf 舗
装, sirīr ベッド, maggānan たでで,
ḥil'a 顔の造り

すると飯屋の主人は、彼に対して言った、「彼を殴り、彼に対してその顔を血だらけにしてやり、彼に対してその脳味噌をがち割ってやる。」そこでグハーは彼に言った、「結構だ、急いで(そうして)くれ。さあ、急いでいるので、私に対して私の顔をぶちかまし、私の頭をがち割ってくれ。舗装の(道の)上で寝る代りに、病院のベッドの上で私は寝るんだ。通りを歩き回って物乞いをする代わりに、病院でたでで食わせてもらうんだ。私の妻の顔など、二度と見たくない。」

II. シリア方言³²⁾

kān fī snūnu, 'ā'ed hū w-rif'āt-o 'al baḥr
'am-yi-šrab-u. 'ām šāf ṭēra. šār y(i)-ḥibb-a
ktīr. 'ām 'al-l-a: bi-t-rūḥ-i ma'-i? 'āl-t-l-o:
la', 'ana ma b(i)-(a)-rūḥ w-ma b(i)-a-trok

snūnu 燕, rif'āt < sg. rīf' 友, ṭēra 小
鳥, 'ām = Egp. 'ām,

32) Grotzfeld (1965), p. 143.

balad-i. 'al-l-a: 'iza ruḥ-ti la-'and-i, b(i)-
(a)sāwī-l-ek 'uṣṣ ḥilw ktīr w-mi(< bi)-n-'iṣ
sawa. 'āl-t-l-o: la', 'ana b(i)-(a)-ḥibb balad-i w-ma
b(i)-a-'der b(i)-a-truk-ha. 'ām ṭār hāda. rāḥ hūwe
w-rif'āt-o li'ann-o 'aḏe-t iṣ-ṣite w-bard ktīr.

燕がいた。彼と彼の友人たちは、海のほとりに座って（水を）飲んでいて。すると彼は小鳥を見かけて、それを大変好きになった。それで彼は彼女に言った、「君は私と一緒に行く？」彼女は彼に言った、「いいえ、私は行かないし、私の国を去りはしません。」彼は彼女に言った、「もし君が私の元に来るなら、とてもきれいな巣を君に作ってあげるから、一緒に暮らそう。」彼女は彼に言った、「いいえ、私は私の国が好きなのでそこを去ることはできません。」そこで、これ（燕）は飛び去った。彼と彼の友人たちは、冬と大変な寒さがやって来たので、行った。

rāḥ. lamma rāḥ w-māši bi-ṭ-ṭarī', 'āl: la',
lāzem 'ana 'a-rḏa', li'ann-o 'and-i mhimme, bidd-i
(a)-sāwī-ha. 'ām hū rāḏe', šāf wēn bidd-o
y(i)-nām. rāḥ la'a timsāl hēke ya'ni 'āli ktīr.
lammen šāf-o, 'āl: walla ma fi 'illa b(i)-a)-nām bēn
riḏl-ē-ø. rāḥ hāda w-nām bēn riḏl-ē-ø.

彼は行った。道を歩みながら行くと、彼は言った、「いや、私は戻らなければいけない。というのも、私にはやりたい仕事がある。」そこで彼は戻り、どこで眠りたいかと見た。行くとこんな、つまりとても高い像を見つけた。それを見た時に、彼は言った、「彼の両足の間で眠る以外はない。」これは（そこに）行って、その両足の間で寝た。

ma šāf b-il-lēl 'illa mwayy ṣār-et ti-nzel
'alē-ø. 'āl: yo, šū? mnēn il-mwayy? 'ām hāda
ṭalla' hēk 'a-t-timsāl w-'illa la'ā 'yūn-o
'am-ti-bki. ṭalla' hēk w-'al-l-o: lēš
'am-ti-bki? 'al-l-o: 'iza bidd-i 'aḥkī-l-ak, 'isṣt-i
ṭawīle ktīr. 'ām 'al-l-o: ḥkī-l-i yā-ha! 'al-l-o: 'iza
ḥkē-t-ill-ak yā-ha, bi-t-naḥḥed-l-i kill
ṭalabāt-i? 'al-l-o: ṭayyeb, b(i)-a)-naḥḥed-l-ak yā-ha,
lāken bidd-i (a)-ṭīr 'a-lḥa' rif'āt-i w-(a)-rūḥ 'ala
balad-i. 'al-l-o: la', daḥīl-ak, lāzem t-sā'id-ni. 'al-l-
o: ṭayyeb, šū bi-t-rīd?

夜には、自分の上に水が落ちてき始めるのを見るだけだった。彼は言った、「あれ、何だ？どこから水が？」そこでこれは、こうして像をじっくりと見ると、彼（像）の両目が泣いているのを見出したに他ならない。彼はこうして見つめ、彼に言った、「君はなぜ泣いているのか。」像は彼に言った、「私が君に話したいなら、私の話はとても長いよ。」そこで彼（燕）は彼に言った、「私にそれを話せよ！」彼（像）は彼に言った、「私が君にそれを話したら、君は私の求めをすべて私にしてくれるかい？」彼（燕）は彼に言った、「よかろう、私は君にそれをしてあげよう。だ

sāwa 作る, 'uṣṣ(sic) cf. 'uṣṣ 巢, sawa
一緒に, ṭār 飛ぶ, 'aḏe-t < 'aḏa 来る
(pl. を f. sg.), ṣite 冬, bard 寒さ

mhimme 任務/仕事, la'a 目にする,
timsāl 像, walla 誠に

mwayy 水, yo 間投詞, ṭalla' じっくり
見る, 'yūn < 'uyūn, 'iṣṣa 話, yā-ha
< يَإِيهَا, naḥḥad 実施/実現する, laḥa'
追いつく, daḥīl + 2人接: どうぞ
(懇願), rād 欲する

けど、私は飛んでいって私の友人たちに追いつき、自分の国に行きたい。」彼（像）は彼に言った、「いや、お願いだから、君は私を助けてくれないといけない。」彼（燕）は彼に言った、「いいだろう、君は何を欲しているのか。」

'al-l-o: šūf! — ʔalla' la-b'īd — šūf fi 'ōda, hal-'ōda fī-ha ʔāleb 'am-yi-dros. 'am-yi-shar ʔūl il-lēl w-bardān. ma 'and-o ʔaṭab la-ḥatta yi-š'el w-yi-tdaffa. w-'am-yi-shar la-ḥatta y(i)-'addem ... fi 'and-o 'iṣṣa bi-(yi-)'addem-ha lil-madrased. b(i-a)-rīd minn-ak 'inn-ak t-āḥod hal-'iṣr — 'iṣr-ē-ō dahab — min 'ala ʔism-i t-āḥid-a ya-ō, ḥuṭṭ-ill-o yā-ha 'a-ṭ-ṭāwle w-ti-ṣi la-'and-i. 'al-l-o: lāken mišwār b'īd. 'al-l-o: daḥīl-ak. 'al-l-o: ṭayyeb.	siher 徹夜する, bardān 寒い(人), ʔaṭab 薪, ša'al 火をつける, t-daffa 温まる, 'iṣr/riṣl 足(f), ya-ō 'him/it', ḥaṭṭ 置く, 'aṣa/yi-ṣi 来る, mišwār お使い
--	---

彼（像）は彼に言った、「見ろ」—彼は遠くをじっと見た—「部屋の中を見ろ、この部屋は中で生徒が勉強している。一晩中徹夜して、寒そうにしている。彼には火をつけて温まるための薪もない。提出するために彼は徹夜しているのだ... 彼には学校に提出する話があるんだ。君には、君がこの足—その両足は金だ—を取り、私の体（の上）からそれ（足）を、それ（金）を取って欲しい。彼（生徒）にそれ（足）を机の上に置くんだ。そして、君は私の元に（戻って）来るんだ。」彼（燕）は彼に言った、「しかし、遠いお使いだな。」彼（像）は彼に言った、「君にお願いだ。」彼（燕）は彼に言った、「いいだろう。」

III. イラク方言³³⁾

fad yōm ǧiḥḥa 'izam ba'ḍ il-aṣḍiqā' 'ala ḡada. lamma wuṣl-aw li-l-bēt, wuḡf-aw bi-l-bāb 'al(a) mā y(i)-ṭubb ǧiḥḥa wi-(y)i-sawwī l-hum darub.	'izam 招く, ḡada 昼食, wuṣal 着く, wuḡaf 立ち止まる, 'ala mā~するまで, ṭabb 入る, darub 通り道
---	---

ある日、ジュハーは何人かの友人をお昼に招いた。彼らは家にやってくると、ジュハーが（まず中に）入って彼らに道を作って（家の中に案内して）くれるまで、戸口で立って（待って）いた。

bass min zawīḡt-a 'urf-et bi-l-'azīma, gell-et-l-a: 'āḥir i-šlōn 'izam-it-hum wi-(a) ḥna ma 'i(n)d-na šī? gell-il-ha: zēn, rūḥ-i 'inti dab(b)r-ī-ha. 'āni 'a-stiḥī 'a-gull-il-hum ma 'id-na šī.	min~ので, 'u/iraf 知る, 'azīma 招待, gell-et-l-a < gāl-et-l-a, 'āḥir とんでもない, gellilha < *gāl-l-ha, dabbar うまくやる, stiḥa 恥ずかしい
--	---

しかし、彼の妻は招待について知ると、彼に言った、「とんでもない、私たちには何もないのに彼らの招待なんて、どのように?」彼は彼女に言った、「ならいいよ、君が行って、それ（招待の件）をうまくやってくれ。私たちには何もないと、私が彼らに言うなんて、私は恥ずかしい。」

'ād gām-et zawḡet ǧiḥḥa ū(<w)-wuḡf-et i-t-ḥācī ṣidqān raḡil-ha min wara l-bāb. ū-	'ād さて/そこで(間投詞), ḥācī 話しかける, ṣidqān pl., tirdūn < *t-rīd-ūn
---	---

33) McCarthy, R. J. & Raffouli, Faraj (1965): *Spoken Arabic of Baghdad*. Part 2(A), Beirut, Librairie Orientale. pp. 68-69.

gell-et-il-hum: š-t-ird-ün? gell-ō-l-ha: ġiḥḥa! gell-et-il-hum: ma hnā hūwa! gell-ō-l-ha: ‘aġṭb! hassa ṭabb giddām-na! gell-et-il-hum: ‘intu ġaltān-īn! ġiḥḥa ba’d ma ‘iġa!	(rād 欲する), giddām の前に, ġaltān 間違ってる, ‘iġa = ġā
--	---

さてジュハーの妻は立ち上がると、戸口の後ろから彼女の夫の友人たちに話しかけようと立った。彼女は彼らに言った、「あなたたちは何を欲しているの？」彼らは彼女に言った、「ジュハー！」彼女は彼らに言った、「彼はここにいないわよ！」彼らは彼女に言った、「おかしいぞ！彼は今、私たちの前で中に入った。」彼女は彼らに言った、「あなたたちの方が間違ってる！ジュハーはまだ来て（戻って）ない！」

ū-ḍall-aw yi-ġ(<t)-ġādī-ūn ū-yiġġādīlūn, sidqān-a yi-gl-ūn: hūwa bi-l-bēt! ū-zawiġt-a t-gūl: ba’d ma ‘iġa! ‘ilā ‘an zihag ġiḥḥa ū-ṭalla‘ rās-a mn iš-šibbāč ū-gel-hum: hassa lēš da-t(<t)-ṭaw(w)l- ū-ha wi-t-‘arḍū-ha wīya hal-i-mrayya? yi-ġūz il-bēt bi-ø bāb-ēn, ū-ġiḥḥa ṭabb min bāb ū-ṭila‘ min bāb i-laḥ!	ḍall し続ける, t-ġādī 言い争う, ‘ilā ‘an とうとう, zihag うんざりす る, ṭalla‘ 突き出し見せる, ṭawwal 長 くする, ‘āraḍ 反対する, mrayya = mara, ġāz ありうる, ṭila‘ 出る, laḥ/luḥ 別の(m./f.)
---	---

彼らは言い争い続け、彼の友人たちは言う、「彼は家にいる！」彼の妻は言う、「まだ戻ってない！」とうとうジュハーはうんざりし、彼の頭を窓から突き出して彼らに言った、「さーて、君たちはなぜそれを長々とやりあい、それをこの女に反対するのか。家は、それには戸口が二つあって、ジュハーは（一方の）戸口から入り、別の戸口から出たってこともありうるだろう！」

IV. UAE 方言³⁴⁾

n-nās fakkar-aw fi ṭarīġa tānya l-aġil yi-ṭhallaṣ -aw min bu-nwās. ġāl-aw ḥagg l-ḥākim: “ni-bġa ni-ḍbaḥ-a.”	ṭarīġa طَرِيقَة, l-aġil ～するために, ṭhallaṣ min ～を免れる/やっつけ る, bu-nwās アブー・ヌワース（ジ ュハーに同じ）, ḥagg ～に prep., ḥākim 統治者（スルタンに同じ）, baġa/yi-bġa ～したい, ḍbaḥ 屠る/殺 す
---	--

人々は、アブー・ヌワースをやっつけるために、別の方法を考えた。彼らはスルタンに言った、「私たちは彼を殺したい。」

ġāl l-ḥākim: “bāčir š-ṣabāḥ kill wāḥid yōm-ma y-nišš y-ġṭb bēḍa min bēt-a w-ya-ġī hni w-gabil-ma yi-ġlis y-ḥuṭ-ha taḥt-a, sittīn nafar. bu-nwās wāḥid w-sittīn.” yils-aw. ġāl l-ahum l-ḥākim: “ha-l-ḥīn ‘intu nišš-u. ‘iḍa wāḥid min-kum ma fī taḥt-a bēḍa b-a-ḍbaḥ-a.”	bāčir 明日, yōm-ma ～の日に > when, našš/yi-nišš 目覚める, gabil-ma أَقْبَلُ, ġilas = yilas 座る, ḥaṭṭ/yḥuṭṭ 置く, nafar 人（にん）
--	---

34) Qafishe (1979), p. 180.

スルタンは言った、「明日、朝は、目が覚める時に各人は、その家から卵（1つ）を持って来てここにきて、座る前にそれを自分の下に置くべし。60人だ。アブー・ヌワースで61人だ。」（朝が来て言われたとおりに）彼らは座った。スルタンは彼らに言った、「今こそ、お前たち、目を覚ませ。お前たちの中で1人でも、その下に卵がない者は、俺が（その）彼を殺す。」

našš-aw. našš bu-nwās. ma kām fī taḥt-a bēḍa.
gāl s-sultān: “’iḍbaḥ-ū-ø!” gām bu-nwās yi-šga’.
šiga’ wāyid. gāl-ū-l-a: “lēš ’inta ti-šga’?”
gāl-l-ahum: “’āna dīč w-intum diyāy.” gāl l-ḥākim:
“ind-a ḥagg. niḥin stawē-na diyāy w-huw stawa
d-dīč. ma ḥaṭṭē-na dīč min ’awwal niḥin!”

gām〜し始める قام, šiga’/yišga’（雄
鶏が）鳴き喚く, dīč 雄鶏 ديك, diyāy
ひよこ/雌鶏 دجاج, ḥagg حق, stawā〜
も同然である

彼らは目が覚めた。アブー・ヌワースも目が覚めた。彼の下には卵がなかった。スルタンは言った、「彼を殺せ！」アブー・ヌワースは鳴き喚き始めた。彼は太い（うるさく）鳴き喚いた。彼らは彼に言った、「なぜお前は鳴き喚くのか？」彼は彼らに言った、「俺は雄鶏で、お前たちは雌鶏だ。」スルタンは言った、「彼は正しい。俺たちは雌鶏に等しく、彼は雄鶏も同然だった。雄鶏は、最初から置かなかったのだ、俺たちは！」

V. スーダン方言³⁵⁾

wa umm al-ḥisēn marag-at minn-u mithayyir-a
fī t(< al*) ta-sawwī-hu wa gāl-at: ‘išt-an bala wad
idrīs, aḥēr ‘adama. wa min aš-ṣabāḥ ḍabaḥ-at lē-ha
‘atūd wa šāl-at-u wa maš-at le l-ḡāba al fī-ha
l-asad wa ram-at-u yyā-hu wa wagaf-at ba’īd.

* この al は関係詞(=冠詞)

marag 出る, ithayyar 困惑する,
sawwa/ya-sawwi する, ‘iša 暮らし
(-an は tanwīn の名残、不定を示す
だけで対格でない), bala〜なし
で, aḥēr < أَخِير/خَيْر (主語は後ろ),
‘adama 欠如 عَدَم, ‘atūd 子山羊 عَتُود
(Lane の辞書), šāl 運ぶ/担ぐ, ḡāba
森, yyā- يَأِي

（遠方に出かけた夫が別の女と結婚すると噂を聞いた女がファキ[イスラム法学者 faki]に相談した後で）ウンム・アル・フセインは、彼女がする（べき）ことについて当惑しながら、彼（ファキの元）から出て言った、「ワド・イドリース（夫の名）がいない暮らし？いない(死ぬ)方がまし！」朝から彼女は自分のために子山羊を屠ってそれを担ぎ、ライオンのいる森へと歩いた。それ（子山羊）を彼（ライオン）に投げ（与え）、彼女は遠くに立っていた。

wa tāni yōm ḍabaḥ-at lē-hu ‘atūd āḥar wa
wakit ram-at-u wagaf-at ḡanb-u wa tālit yōm be
l-mitil wadd-at lē-hu ‘atūd wa ga’ad-at ta-mallis
lē-hu fī rās-u wa bišēš ma’aṭ-at aš-ša’arāt min
šanab-u.

be l-mitil 同じように, wadda 持って
/連れて行く, ga’ad 座る>続ける,
mallas 撫でる, bišēš ゆっくりと,
ma’aṭ むしる, šanab 髭

2番目の日、彼のために別の子山羊を屠り、彼女がそれを投げ（与え）た時、彼女は彼のそばに立った。3番目の日は、同じように彼女は彼のために子山羊を持って行き、彼を、彼の頭を彼女

35) Trimmingham (1946), p. 145.

は撫で続け、ゆっくりと彼女は彼の髭から毛 (*f. pl.*) を抜いた。

wa wadd-at-in le l-faki wa ḥak-at lē-hu be s(<
al) saww-at ma'a l-asad li-gāyat mā ma'aṭ-at
minn-u aš-ša'arāt, wa gāl lē-ha: kān min zamān
kun-ti bi-s-sawwi ma'a wad idrīs kadi, mā kān
fāt-ik wa-lā ḥatt-a l-'iris fi galb-u.

-in 彼女達を, kān もし (接続詞),
bi-s-sawwi < bi-ta-sawwi, fāt 去る,
ḥatta 置く, 'iris 結婚 غرس

そして彼女はそれら (毛) をファキに持って行き、彼女がとうとう彼 (ライオン) から毛を抜く
まで、彼女がライオンにしたことについて、彼 (ファキ) に彼女は話した。彼 (ファキ) は彼女
に言った、「もし、ずっと前からあなたがワド・イドリースに対してそのようにしていたら、彼
はあなたを去らなかっただろうし、(別の女との) 結婚 (のこと) を彼の心の中に置くなどもし
なかっただろう。

daḥīn awwal mā ya-rḡa' sawwi lē-hu mitil mā
sawwē-ti le l-asad wa hu ya-g'ud ma'ā-ki wa
yi-ḥalli l-'iris wa barā-ki šuf-ti "al-ḥasana ma'aṭ-at
šārib al-asad."

sawwi 命令形, ḥalla 捨て置く, bara
自分で/1人で, šārib 口髭

今は、彼が戻ってきたらすぐに、あなたがライオンに対してしたように、彼にもしなさい。彼は
ずっとあなたといて結婚 (のこと) など捨て置くだろう。あなたは自分で『善行がライオンの口
髭をむしり取った』(という諺の意味) を見知ったのだ。」

VI. ジュバ・アラビア語³⁶⁾

kedé ina séli. šukuran rābuna, al jību le ina
ākil. ina bi rūwa ākulu, kedé ita bāriku ākil dé, u
kamān bāriku nās al rākabu, u bāriku nās al gī
rūwa ākulu dé. kamān kedé ita wodī le nās al mā
ligó. wa bāriku ina kúlu fi isim Yesû al Mesî.
emên.

(A Prayer in Juba Arabic)

séli *to pray*, bāriku *to bless*, rābuna
the Lord, jību 持つてくる, ākil *food*,
ākulu *to eat*, kamān また, rākabu 素
材を組み合わせ料理する ركب, wodī
< ス wadda 持つて行く/与える,
ligó < ス liga 会う/見出す/いる,
isim *name*, Yesû al Mesî *Jesus*
Christ, emên *amen*

私たちはお祈りをしましょう。私たちに食べ物をもたらした主よ、感謝します (ありがとう)。
私たちは食べようとしています。あなたが、この食べ物を祝福し、また料理をした人たちを祝福
し、(今からすぐに) 食べようとしている人たちを祝福なさるように。また、(ここに) 居合わせ
ない人たちにも、あなたがお与えなさるように。そして、イエス・キリストの名で私たち全員を
祝福なさ (ってください) い。

zékiri rābuna íntum ya nāsi ta dūniya
wāja ta géliba séli le rābuna
Yesúa fi úwo bi sáidu lo ita déru

zékiri *to remember*, íntum (= *ítakum*), nāsi (= nās), dūniya 世界,
wāja *pain*, géliba *heart*, Yesúa (=

36) Nakao (2014 = Ver. 2), pp. 20, 22. 英訳はオリジナルのままであるが、日本語やアラビア語が付いた語彙は高階による。また、変更された表記法は Nakao (2011) に戻してある (sh > š)。

dúniya dé bi kábasu kabása ta haláwa
dúniya dé fôgo šitáni ma níya ta jísim
ma níya ta éna, bi wóduru íta

(Juba Arabic Song: *Zékiri Rábuna*)

Yesû), sáidu *to help*, lo (= kan),
kábasu *to cheat*, kabása *cheating*,
haláwa *sweets*, fôgo (前を受け)そこ
には, šitáni *Satan*, níya *lust*, jísim (= *gísim*),
wóduru *to mislead, to be lost*

Remember Lord, you people on the world; Hurting hearts, pray for the Lord. Jesus lives, he will help you if you need. The world cheats a sweet cheat. The world has the Satan with lust of body, and lust of eyes, they will lead you astray.

(“Remember the Lord” by Mary Botul)

VII. チュニジア方言³⁷⁾

il-‘āyla b-šīfa ḥāšša ti-t-kawwin zāda min
ḥuddām. sā‘āt famma ḥdīm mi-t-kallif b-il-qaḍya
fi š-šāri‘, *wargli*.

‘āyla 家族, šīfa صفة, itkawwin تنكؤن
で構成される, zāda 更にその上,
ḥuddām/pl. 召使 < ḥdīm, sā‘āt 時々,
itkallif 担う, qaḍya 用事/買い物

特別な場合、家族はさらに召使たちからも構成される。時々は、通りでの買い物を担当する召使、ワルグリがいる。

ḥādāka ma yu-dḥul-š l-id-dār, ‘and-u bīt fi
s-sqīfa yi-bda, yu-skun fī-ha. f-id-dār famma mra
ti-t-kallif bi-t-tāṭīb, ṭabbāḥa, u-ḡaššīra bāš ta-qḍi
bīn il-yiddīn* t-midd** u-ta-ḥrik, wāḥid i-ḥibb šī
qaḍya waqt-li hūwa yu-ftur.

sqīfa 入口/母屋間の屋根付通路,
bda/yibda ‘to be’, mra 女, tāṭīb <
*taṭyīb cf. ṭayyib 料理する, ṭabbāḥa
料理女, ḡaššīra 下女(10才前後ま
で、語源不明), bāš~ために, qḍa 用
をする, mad 手を伸ばす, ḥrek 動か
す/掻き混ぜる, waqt-li の時に, ftar
朝食を取る

* 傍らで *lit.* between the two hands, cf. بَيْنَ يَدَيْهِ

** チュニジア方言重子音動詞は後続母音がないと

単子音に近い: mad *pf.* 3 *m. sg./i-middu impf.* 3. *pl.*

あれ(ワルグリ)は家には入らず、彼にはスキーファの中に(そこに)住んでいる部屋がある。家の中には料理を担当する女、(つまり)料理女と、(たとえば)朝食を取る時に人は何かの用をして欲しいが、傍らで手を伸ばしたりかき混ぜたりして用を足すために、下働きの少女がいる。

‘āylt-i āna kun-na na-‘rf-u ‘and-na wāḥid illi
yi-ḥdim, illi ya-qḍi fi š-šāri‘, middib kān yi-ttilha
bī-na bāš i-ḥaffaḍ-na l-qur’ān. lā-hi fi d-dār fi
s-sqīfa yi-bda qā‘ad bīt mtā‘-u hūwa bi-ḍ-ḍimma
lī-h. fī-ha ḥank w-aḥna ḡādīka n-žī-u n-kaṛṛ-u
l-qur’ān willa na-ḥfḍ-u, nu-q‘d-u baḥḍā-h, i-dūliš
bī-na fi l-‘šīya i-ḥarriž-na.

ḥdim 仕える, middib クルアーンの
先生 مُؤَدِّب, yittilha < yi-tlha b-を気
遣う, ḥaffaḍ 覚えさせる, qā‘ad *a.p.*
据え付けられ < q‘ad 座る, ḍimma
随意, ḥank 腰かけ, nkaṛṛu <
*n-kaṛṛi-u 反復する, willa = walla,
ḥfaḍ 覚える, baḥḍā の傍で, dūliš 散
歩する, ‘šīya 夕方

37) Fischer, Wolf Dietrich und Jastrow, Otto (1980): *Handbuch der arabischen Dialekte*. (PLO NS 16), Wiesbaden, Otto Harrassowitz, pp. 267- 270.

私の家族では、私たちのところに仕えて通りで用をしてくれる1人（の男）を知っていた。（つまり）私たちにクルアーンを覚えさせるため気遣ってくれるクルアーンの先生である。彼には、家の中でスキーファの中に、彼の意のままになる彼の部屋が据え付けてある。その中には腰かけがあって、私たちはそこにやって来て、クルアーンを反復したり覚えたり、彼の傍に座ったりし、彼は夕方には私たちを連れて散歩して私たちを外に連れ出してくれる。

fī d-dār id-dāḥil famma mṛa rabbī-nā-ha mil(<n) li hīya zġīra; lāhy-a bi-t-tāṭīb t-‘āwun umm-i fī-l-ḥarka u-ġaššīra uḥṛa m-kallf-a bi-l-maddān u-l-ḥarka.	rabbā 育てる, zġīr 小さい, lhā b-気遣う / 世話する, ‘āwin 助ける, ḥarka 動き / 仕事, kallif 仕事を担わせる <i>p.p.</i> , maddān mad(<*madda 手を伸ばす)の動名詞 > 細かい仕事
---	---

内側の家には、（彼女が）幼い頃から私たちが（彼女を）育ててきた女がいる。料理を気遣い、私の母を仕事で手伝う。細かい仕事や動きを担当させられる、別の下働きの少女である。

VIII. モロッコ方言 ³⁸⁾

žḥa, f-weṣt remḍan dar ḥila baš y-akol remḍan qoddam en-nas dyaḥ fas koll-hom. u-ḥit bġa i-dir dak eš-ši ‘reḍ ‘al l-qaḍi u-žuḥ d-l-e-‘dul f el-lil u-dda-hom l-ḍar-u.	dar/idir する, ḥila 策略, baš〜するため, qoddam の前で, fas フェズ, ḥit 〜ので, bġa 欲する, ‘reḍ ‘al 招く, ‘dul < ‘adel 公証人 <i>pl.</i> , lil 夜, dda 連れる
---	--

ジュハーはラマダーンの真っ最中にフェズの人たち全員の前でラマダーン（の食事）を食べるために、一つの策略を行った。そのことを行いたかったので、判官と公証人2名を夜に招いて彼の家に連れて来た。

deḥḥel-hom l-waḥd ed-dehliṣ mferreš tefriša mezyana u-gelles-hom u-nezzel-l-hom waḥd el-makla ldida u-men ba‘d, qam l-hom atay u-dar l-e-ḥšiša f el-berrad bla ḥbaṛ-hom.	dehliṣ 入口の間, ferreš 飾る, gelles 座らせる, nezzel 食事を供す, makla 食事, ldid 美味しい, qam 食事を用意する, bla〜なしに, berrad やかん
--	--

良い装飾で飾られた、ある入口の間に彼らを（招き）入れ、彼らを座らせ、さる美味しい食事を彼らに出した。その後、彼らにお茶の用意をし、彼らへの情報もないまま、やかんの中でハシーシを作った。

ma bt-at-ši l-e-ḥšiša f dmaḡ-hom ḥetta t-duwḥ-u. ḥella-hom žḥa hakdak ḡayb-in ‘(a)l ed-denyā ḥetta l-la-ġedda f el-luwli. ‘ad fiyyeq-hom u-qal-l-hom: daba ‘ad el-lil. u-nezzel-l-hom š-šḥur fuq el-mida u-ḥrež.	bṭa 遅い, dmaḡ 脳味噌 / 頭, t-dūweḥ 目眩がする, hakdak そのように, ḡayb- غائب, ḥetta l-迄, la-ġedda 翌日, f el-luwli 最初は, ‘ad ‘well/then’, fiyyeq 起きさせる, šḥur 日の出前の食事, mida 食卓
--	---

彼らがめまいを感じるまでに、ハシーシは彼らの頭の中でそう手間取らなかった。ジュハーは最初のうち、その翌日まで、世間には彼らをそのまま留守の状態にしておいた（外に出さなかった）。

38) Harrell (1962), pp. 255-256.

それから彼らを目覚めさせると、彼らに言った、「さて、今は夜だ。」そして彼らに夜明け前の食事を食卓の上に出すと、(外に) 出た。

mnin ušel l-el-bab el-kbira d-el-qerwiyyin, gles
u-bda ka-y-akol. n-nas koll-hom bd-aw i-‘ayb-u
‘(a)li-h ‘la makelt remḍan u-huwa i-ḡawb-hom
u-qal-l-hom: had en-nuba remḍan ma fi ḡir
ḥemstašer yum, u-ṛa l-qaḍi m‘a l-e-‘dul ‘and-i f
eḍ-ḍar ka-y-akl-u u-huma lli šifṭ-u-ni na-‘lem-kom
b-el-‘id ṛa ḡa.

mnin～してから, el-qerwiyyin 有名
モスク, bda 始める, ‘ayyeb 答める,
ḡaweb 答える, nuba 回, ḡir غَيْر, šifet
遣わす, ‘lem 分かる/教える

カラーウィーイーン・モスクの大門に着いてから、彼は座って食べ始めた。人々は全員で彼のこ
とを、ラマダーン（中）の食事について答め始めた。彼は彼らに答えて彼らに言った、「今回の
ラマダーンは15日しかない。ほら、判官は公証人たちと一緒に私のところで、家で食べている。
『ほら、お祭りが来た』と君たちに知らせるようにと私を遣わしたのは、(ほかならぬ) 彼らだ。」

u-dda n-nas m‘a-h baš i-werri-l-hom el-qaḍi
u-l-e-‘dul ka-y-akl-u. ḡir huwa ḥall bab ed-dehli
u-l-qaḍi u-l-e-‘dul šaf-u n-nhaṛ ḍawi u-huma
ma-zal-in ka-y-akl-u. n-nas ‘arḥ-u-ha ḥila men
ḥilat ḡha u-qal-u: wa-laynni had ḡha miššel mn
eš-šitan ḥit z‘am ye-l‘ab ḥetta b-el-qaḍi dyal-na.

werra 見せる, ḡir するや否や, ḥall
解く/開く, ḍawi 輝いている, ma-zal
まだ, ‘ref 知る, laynni しかし,
miššel < myeššel < 生来のمُوصَّل,
šitan サタン, z‘am 取えて機会を掴
む

彼は自分と一緒に人々を、判官と公証人たちが食べているのを彼らに見せるため、連れて来た。
入口の間の戸を彼が開けるや否や、判官と公証人たちは、自分たちがまだ食べているのに、日が
明るいのを見た。人々はそれがジュハーの策略の一つだと知って言った、「しかし（それにして
も）、このジュハーとは、私たちの判官でさえ（からかって）遊ぼうとチャンスを掴むからには、
サタンから生まれたままだ。」

IX. マルタ語³⁹⁾

fil-bidu Alla halaq is-sema u l-art; u kien-et
l-art tahwid baḥḥ; u d-dlam kien fuq wiçç l-abissi
u fuq wiçç l-i-bhra kien ji-t-tajjar riḥ ta’ Alla.

bidu 初め, sema 空, art 地, tahwid 混
沌تَحْوِيض貯水, baḥḥ 虚無, dlam 闇,
i-bhra pl. < bahar بحر 海, it-tajjar 飛
ばされる, riḥ (m.) 風

初めに神は天と地を造った。地は混沌として虚無であった。闇が深淵の面の上にあり、海々の面
の上には、神の風が飛ばされていた。

U qal Alla: “Ha j-kun id-dawl.” U d-dawl sar.
U ra Alla d-dawl li kien tajjeb. U Alla fired
id-dawl mi-d-dlam. U d-dawl Alla semmie-h jum,

dawl 光-الضوء, sar 成る/ある, li =
illi أَنْ, fired 分けるفَرَدَ 単独だ,
semmie 名づけるسَمَّى, sejjah 呼ぶ

39) Ghaqda Biblika (1984): *Il-Bibbja*. Malta, Media Center., p. 1. (旧約) 聖書の冒頭を選ぶのは、熱心なカトリックであるマルタ国民の信仰を長く担ってきたという、アラビア語のもう一つの側面を紹介したいからである。

u d-dlam sejjah-l-u lejl. U dalam u sebah – | صَيِّح 呼ばれる, dalam 暗くなる,
L-ewwel jum. | sebah 朝になる

神は言った、「光はあるべし。」そして光ができた。神は光をそれは良いと見た。神は光を闇から分けた。光を神は、それを日と名付け、闇はそれを夜と呼んだ。暗くなって、朝になった—最初の日。

U qal Alla: “Ha j-kun hemm medda f’nofs | medda 広がり, nofs 半分 نصف,
l-il-mijiet u ti-fred ilma minn ilma.” U Alla | il-mijiet *pl.* < ilma 水, mill- < *min l-
ghamel il-medda u fired l-ilma ta’ taht il-medda
mill-ilma ta’ fuq il-medda. U hekk sar. U l-medda
Alla semmie-ha sema. U dalam u sebah – It-tieni
jum.

神は言った、「水たちの半分に広がりがあるべし。そして水を水から分けるべし。」神は広がりを造り、広がりの下の水を広がりの上の水から分けた。そしてそのようになった。その広がりを神は空と名付けた。暗くなって、朝になった—2番目の日。

U qal Alla: “Ha ji-n-ğemgh-u naha wahda | n-ğema’(/-gh) 集まる, naha 側,
l-ilmijiet ta’ taht is-sema u ji-dher l-i-nxif.” U | deher 現れる ظَهَرَ, nxif 乾燥 نَشَفَ,
hekk sar. U sejjah Alla l-i-nxif art; u l-ğemgha ta’ | gemgha 集ま/める事/モスク, sejh- <
l-ilma sejh-il-ha bahar. U Alla ra li koll-o-x kien | sejjah, koll-o-x كُلُّ شَيْءٍ
tajjeb. [Gen 1:1-10]

神は言った、「空の下の水たちは一つの側に集まり、乾燥が現れるべし。」そしてそのようになった。神は乾燥を地と呼び、水の集まりを、それを海と呼んだ。神は全てのことを良いと見た。〔創世記1: 1-10〕